

令和元年東日本台風災害 復旧・復興に向けた取組の状況等について



令和3年3月24日
長野県

1 被害状況等について

1-1 人的・住家被害等

1 人的被害

| | | |
|----------------|-------|------|
| ・ 死者 | 21 名 | (+6) |
| <u>うち災害関連死</u> | 16 名 | (+6) |
| ・ 行方不明者 | 0 名 | (±0) |
| ・ 重傷者 | 14 名 | (±0) |
| ・ 軽傷者 | 136 名 | (±0) |

【死者数内訳】

| 市町村名 | 数 |
|------|----|
| 長野市 | 15 |
| 飯山市 | 1 |
| 佐久市 | 2 |
| 東御市 | 1 |
| 小布施町 | 2 |

令和3年3月24日現在

※ () は、前回会議
(9月25日)との差

2 住家被害

| | | | | |
|--------|--------|-------|----------|-------|
| ・ 全壊 | 920棟 | (± 0) | 1,087 世帯 | (+ 4) |
| ・ 半壊 | 2,498棟 | (-17) | 2,881 世帯 | (+70) |
| ・ 一部破損 | 3,564棟 | (+29) | 3,688 世帯 | (+29) |
| ・ 床上浸水 | 2棟 | (± 0) | 5 世帯 | (± 0) |
| ・ 床下浸水 | 1,360棟 | (± 0) | 1,627 世帯 | (± 0) |

【災害を踏まえた取組】 長野県地域防災計画の修正(令和3年3月10日防災会議にて承認)

令和元年東日本台風の災害対応の振り返りを踏まえ、県や市町村等が取り組むべき以下の内容を追加

マイ・タイムラインの普及等
適切な防災行動の周知

流域治水への転換

避難所の環境改善

物資調達の迅速化や
広域連携

円滑なボランティア活動のため
の協力体制の充実

在宅避難者等の把握

1-2 被害総額



276,674 百万円

| 被害の別 | 発生数 | 単位 | 被害額(百万円) | 備考 |
|-------------|-----------|-----------|------------|---------|
| 計 | - | - | 66,928 | |
| 農業関係 | 農作物・樹体被害 | 2,062 ha | 1,925 | |
| | 生産施設等 | 1,219 箇所 | 8,575 | |
| | 農地・農業用施設 | 10,365 箇所 | 56,168 | |
| | 農業集落排水施設等 | 12 箇所 | 260 | 農村公園施設含 |
| 林業関係 | 計 | 1,818 箇所 | 4,685 | |
| | 治山 | 88 箇所 | 2,310 | |
| | 林道 | 1,730 箇所 | 2,375 | |
| 公共土木施設 | 計 | 1,298 箇所 | 70,861 | |
| | 河川 | 803 箇所 | 51,331 | |
| | 砂防 | 47 箇所 | 2,198 | |
| | 道路 | 448 箇所 | 17,332 | |
| 都市施設 | 計 | 75 - | 40,433 | |
| | 下水道 | 55 箇所 | 38,138 | |
| | 公園 | 20 箇所 | 2,295 | |
| 商業関係 | 925 件 | 81,744 | | |
| 学校施設 | 173 校 | 1,281 | | |
| 学校以外の教育施設等 | 83 施設 | 2,245 | | |
| 社会福祉施設 | 133 施設 | 5,170 | | |
| 医療施設 | 18 施設 | 1,366 | | |
| 自然公園 | 23 箇所 | 123 | | |
| 上水道 | 9 事業体 | 382 | | |
| 浄化槽(市町村設置型) | 5 基 | 2 | | |
| 廃棄物処理施設 | 8 箇所 | 47 | | |
| 公営住宅 | 1,032 戸 | 1,258 | 県営と市町村営の合計 | |
| 警察施設等県有施設 | 41 箇所 | 149 | 県庁舎含む | |

令和2年9月18日現在

1-3 生活再建のための資金の配分

(1) 支援金・災害見舞金の支給

被災者生活再建支援法を適用するとともに、法制度の対象とならない被災世帯に対して、信州被災者生活再建支援制度や災害見舞金により市町村と一体となって支援を実施 (令和3年3月1日現在)

| 区分 | 主体 | 支給対象の被害程度 | 支給額 | 対象世帯数※ | 申請件数 a | 支給件数 b | 支給率 b/a |
|---------------|----------|-------------|-----------------|---------|-----------|-----------|------------|
| 被災者生活再建支援制度 | 国 | 全壊・大規模半壊・解体 | 50万円 ～300万円 | 1,691世帯 | 1,596件 | 1,558件 | 97.6% |
| 信州被災者生活再建支援制度 | 県 市町村 | 半壊 | 37.5万円 ～50万円 | 2,246世帯 | 2,246件 | 2,246件 | 100.0% |
| 災害見舞金 | 県 市町村 | 半壊未満の床上浸水 | 10万円 | 523世帯 | 523件 | 523件 | 100.0% |
| 合計 | | | | 4,460世帯 | 4,365件 | 3,925件 | 99.1% |

(2) 義援金の配分

- ・ 受付額 2,748,500,867円(令和3年1月22日現在)
- ・ 配分額 2,725,484,000円(令和3年2月26日現在)
- ・ 市町村への配分日 第1回配分: 令和元年12月13日、第2回配分: 令和2年2月14日
第3回配分: 令和2年8月7日、第4回配分: 令和3年2月26日
- ・ 被害区分当たりの配分額(累積)

| 死亡 | 重傷 | 全壊 | 大規模半壊 | 半壊 | 一部損壊・ 床上浸水 |
|----------|----------|----------|----------|----------|---------------|
| 980,000円 | 489,000円 | 980,000円 | 735,000円 | 489,000円 | 97,000円 |

- ・ 募集期間 令和3年3月31日

2 「暮らし」「住宅」の再建

2-1 見守り活動等、健康障害防止対策

【取組の進捗状況】

- **県生活支援・地域ささえあいセンターの活動【R1.12.18設置】**
 - ・ 統括生活支援相談員2名による、市町村センター活動の支援
 - ・ センター未設置市社協が行う被災者訪問活動等の支援(佐久市、千曲市、須坂市)
- **市町村生活支援・地域ささえあいセンターの活動**
 - ・ 被災者の孤立防止のための見守り、住民交流活動、日常生活上の相談支援
 - ・ 健康状態等に応じた「見守り区分(訪問頻度等)」に基づき、継続して訪問活動を実施

| 市町村名 | 設置日 | 相談員数 | 対象世帯数 |
|------|----------|------|---------|
| 長野市 | R1.12.19 | 22名 | 1,002世帯 |
| 飯山市 | R2.1.6 | 5名 | 168世帯 |
| 中野市 | R2.2.1 | 2名 | 116世帯 |
| 佐久穂町 | R2.1.17 | 3名 | 138世帯 |

※対象世帯については、すべて訪問済み

(R3.1末時点)



住民交流活動の様子

- **生活支援・地域ささえあいセンターにおける主な相談内容、その対応状況**
 - ・ 災害公営住宅への入居可否、仮設住宅退去期限等の相談(長野市)
 - 担当部局へつなぎ、相談者へ状況を説明
 - ・ 公費解体に伴う片づけに関する相談(佐久穂町)
 - ボランティアを依頼し片づけを実施、町担当部局と連携し処分先の調整等を実施

【課題・今後の取組】

- ・ 見守り、交流活動の継続により孤立防止を図るとともに、相談員の個別訪問のなかで福祉ニーズを把握し、必要な支援につなげる。
- ・ 区長、民生委員等と情報共有し、地域住民による支え合い活動を支援していく。

【取組の進捗状況】

● 健康障害を防ぐための取組

・ 避難所開設期間の取組

【応急対応】

- ▶ DMAT、日本赤十字社等各種医療専門家チームも含めたアセスメント、施設支援、搬送支援、本部活動等

【二次的健康被害の持続的な防止】

- ▶ 避難所の環境整備(段ボールベッド、パーテーション導入促進、寒さ・乾燥対策等)
- ▶ 感染症対策の実施(保健師、医療関係者、国立感染症研究所等) ▶ エコノミークラス症候群への対応
- ▶ 高齢者・乳幼児等の要援護者への宿泊施設提供
- ▶ ポピュレーション(住民全体)アプローチ
 - ・避難所巡回相談
 - ・浸水地域訪問
 - ・健康教室、講座
 - ・ところとからだの相談会の開催(各保健センターでの相談受付)
- ▶ ハイリスクアプローチ
 - ・要フォロー者への受診勧奨等

● 外部有識者の知見・過去の大規模災害を教訓にした取組の強化

災害時に求められる保健活動、避難生活の長期化に伴う健康障害の防止等に関し、発災後からの情報を共有し、有識者からの助言を得て取組に活かしていくため、研究会を開催

(1) 災害時に求められる保健活動の実践に関する研修会(R2.1.22)

- ・ 長野保健福祉事務所管内市町村保健師等対象
講師 千葉大学大学院看護学研究科 教授 宮崎 美砂子 氏

(2) 健康障害の防止に係る研究会(R2.2.7)

- ・ 被災市町村保健師、社協職員等対象
講師 北海道立病院局病院経営課人材確保対策室長兼医療参事
石井 安彦 氏(前 北海道苫小牧保健所長)



【取組の進捗状況】

- 被災者のための「こころ・法律・仕事」の相談会
 - ・相談員 弁護士、精神科医、まいさぽ、保健師、市町村職員
 - ・実績

| | R元年度 | | | | R2年度 | |
|--------------|---------|----------|---------|---------|----------|----------|
| 開催日 | 12/7（土） | 12/15（日） | 1/25（土） | 1/26（日） | 12/12（土） | 12/20（日） |
| 開催地 | 佐久穂町 | 飯山市 | 須坂市 | 長野市 | 長野市 | 千曲市 |
| 対象地域 | 佐久・上小 | 北信 | 長野・上小 | 長野・上小 | 長野 | 長野 |
| 相談者数 （件数） | 2（2） | 3（5） | 5（8） | 9（13） | 6（5） | 9（9） |

【課題・今後の取組】

- 周知・広報の工夫
 - 周知期間の確保 ○マスコミ等を活用した広範囲な周知 ○目立つチラシの作成
- 相談会後の継続支援
 - 県・市町村スタッフ間での相談内容の共有 ○専門・関係機関へのつなぎ
- 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策に配慮した開催方法の検討

2-2 医療機関・福祉施設等の復旧支援

【取組の進捗状況】

(1) 総合リハビリテーションセンターの復旧

病棟、施設棟等の1階が床上浸水し、受変電設備、ボイラー、機械設備、多数の医療機器等が浸水。
令和元年度11月補正予算において、765,933千円の災害復旧費を計上。すべての施設の復旧工事が完了。

＜復旧状況＞

- ・ 令和元年10月16日 更生相談室の業務を再開
- ・ 令和元年11月 6日 補装具製作施設の業務を再開
- ・ 令和元年11月11日 外来診療を再開
- ・ 令和元年12月28日 施設部門の入所者等の受入を再開
- ・ 令和2年 3月30日 病棟での患者の受入を再開

被災時



正面駐車場



被災時



復旧後

病棟1階

被災時



CT

復旧後



すべての施設が復旧し、令和2年3月30日から通常どおりの運営を再開。

【取組の進捗状況】

(2) 長野県障がい者福祉センター(サンアップル)の復旧

屋外施設(陸上競技場、テニスコート等)が浸水。屋内施設(体育館、ホール棟)は1階が床上浸水し、機械設備や備品の一部が浸水。令和元年度11月補正予算において、228,703千円の災害復旧費を計上。すべての施設の復旧工事が完了。

<復旧状況>

- ・ 令和元年11月 9日 北信地域の出張スポーツ教室「サンスポートながの」を再開
- ・ 令和2年 1月 11日 トレーニング室、卓球室、遊戯室、会議室、宿泊室、アーチェリー場、陸上競技場を再開

※新型コロナウイルス感染症対策のため令和2年3月3日から6月1日まで休館



被災時



復旧後



被災時



復旧後



被災時



復旧後



被災時



復旧後

正面玄関

廊下

テニスコート

トレーニング室

体育館・ホール・プールの耐震化工事(吊天井補強)も完了し、すべての施設を再開。
(令和2年7月にホール・プール、令和2年8月に体育館を再開)

【取組の進捗状況】

(3) 社会福祉施設等の復旧

<医療施設>

| 被害状況 |
|--|
| 病院、診療所、歯科診療所 計17施設 ○床上浸水11施設 ○床下浸水等 6施設 |



| 復旧状況 |
|--------|
| 16施設完了 |

※1施設が廃止

<高齢者施設>

| 被害状況 |
|---|
| 計33施設 ※軽微な損壊除く ○床上浸水 28施設 (うち利用者向け施設21) ○床下浸水 5施設 |



| 復旧状況 |
|--------|
| 32施設完了 |

※1施設が廃止

<障がい者施設>

| 被害状況 |
|---|
| グループホーム、通所施設 計13施設 ○床上浸水 8施設 ○床下浸水 5施設 |



| 復旧状況 |
|--------|
| 13施設完了 |

※医療施設: 査定が完了し、国へ補助金交付申請済。

※高齢者施設: 査定が完了し、国へ補助金交付申請済。

※高齢者施設、障がい者施設: 被災施設の設備・備品の復旧に対し、補助金を交付。

<児童福祉施設>

| 被害状況 |
|---|
| 保育所 計5施設 ※軽微な損壊除く ○床上浸水4施設 ○床下浸水1施設 |
| 子育て支援センター、放課後児童クラブ 計4施設 ※軽微な損壊除く ○床上浸水4施設 |



| | | 復旧状況 | |
|----|--------|------|---------------|
| | | 完了 | 復旧見込み(R3年度以降) |
| 長野 | 1 | | 長野1 (R5.4月) |
| 千曲 | 1 | | 千曲1 (R4.4月) |
| 飯山 | 1(プール) | | |
| 須坂 | 1 | | |
| 長野 | 1 | | 長野1 (R5.4月) |
| 千曲 | 1 | | |

※復旧が完了していない保育所は、仮設園舎又は他の施設で保育を実施。放課後児童クラブは他の施設で実施。



【課題・今後の取組】

● 再開に向けた支援

<児童福祉施設> 災害復旧事業補助金を活用して引き続き復旧工事を支援

2-3 住宅再建

【取組の進捗状況】(R3.3.1時点)

□ 応急的な住まいの提供・住宅の応急修理の状況

| 区分 | 入居戸数 | | 公営住宅等(※1) | | 応急仮設住宅(※2) | | 計 | 応急修理(※3) | | |
|--------|------|------|-----------|-----|------------|-------|-------|----------|--|--|
| | 県営 | 市町村営 | 借上型 | 建設型 | 申込 | 依頼 | | 完了 | | |
| 長野市 | 20 | 14 | 389 | 62 | 485 | 1,169 | 1,165 | 1,160 | | |
| 長野市以外 | 1 | 12 | 40 | — | 53 | 635 | 631 | 623 | | |
| 計 | 21 | 26 | 429 | 62 | 538 | 1,804 | 1,796 | 1,783 | | |
| 提供戸数累計 | 92 | 155 | 646 | 91 | 984 | 完成割合 | | 98.8% | | |



【木造】



【プレハブ】

建設型応急仮設住宅

※1 原則1年間（自宅等再建工事未完了者及び災害公営住宅入居者は、最長1年間延長可）

※2 最大2年間

※3 日常生活に必要な部分の修理

□ 住宅相談の実施

| | | |
|--------|----------------------------|-----------------|
| 総合住宅相談 | 建築、不動産、税務、法務等の専門家による机上相談 | 2市10回、相談者数：138人 |
| 現地相談 | 被災住家にて、復旧・復興の具体的なアドバイス等を実施 | 相談件数：153件 |



現地相談の状況

□ 災害復興住宅建設事業補助金(一部利子補給)：建設・購入 47件、補修 40件

□ 環境配慮型住宅助成金の活用：建設 1件、リフォーム 26件

□ 各種支援制度等の情報発信：市町村広報誌・チラシ、窓口案内等



【課題】

□ 住宅再建を検討中の世帯等へのサポート

<主な理由>

- ・被災住宅に戻るか悩んでいる
 - ・再建資金不足
- 等

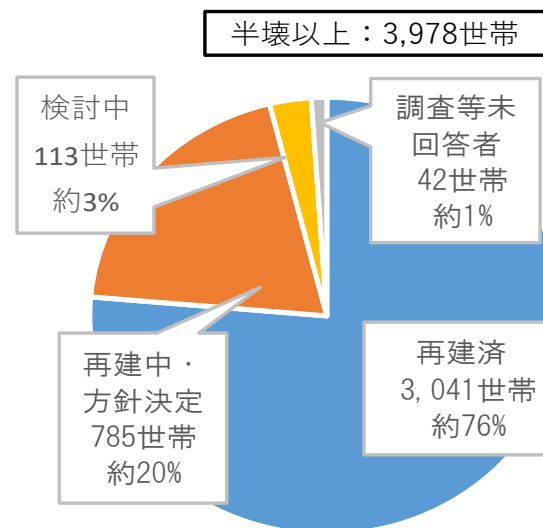
□ 住宅再建意向調査等の未回答者の意向確認

(参考：長野市 3か月に1度の頻度)

□ 自立再建が難しい要配慮者世帯への支援

住宅再建状況（半壊以上世帯対象）

《令和3年3月1日現在：市町村聞き取り》



【今後の取組】

● 市町村・福祉部局と連携し、住宅再建に向けた『きめ細かな支援』を実施

- ・広報紙等による支援制度の情報発信や住宅相談（現地調査アドバイス含む）の実施
- ・福祉部局と連携し、高齢者・要配慮者等の状況把握に努め、住宅再建のサポート
- ・応急仮設住宅を期限内に退去できない方について、供与期間の延長を検討

● 住宅再建進捗状況の定期的な把握

● 災害公営住宅の建設(長野市):市営住宅美濃和田団地 73戸

2-4 災害廃棄物の処理

【取組の進捗状況】

● 災害廃棄物処理の推進

- ・災害廃棄物について、被災市町村では片付けごみの処理は概ね終了し、現在は被害の大きかった市町村において公費解体を実施している状況。
- ・県は、被災市町村が円滑に公費解体等が実施できるよう、引き続き協力。

被害状況 16市町村

進捗状況

| 完了 (R3年2月末時点) | 完了見込み | |
|------------------|--------------|-------------|
| | R3年 3月末まで | R3年 9月まで |
| 8 | 7 | 1 |

発災後2年間での処理完了を目標

長野市(赤沼公園)



令和元年10月26日時点



令和元年12月27日時点

千曲市(旧名月荘跡地)



令和元年11月7日時点



令和元年11月18日時点

【取組の進捗状況】

● 国や団体等による支援

- 発災直後の長野市においては、市が設置した災害廃棄物仮置場以外で、地域の公園などに集積された廃棄物については、自衛隊、ボランティア、他県市町村応援車両、(一社)全国清掃事業連合会等が連携し搬出作業が行われた。
- 「Operation: One Nagano」の名称で、ボランティアが 災害廃棄物を昼間に赤沼公園等に一時集積させ、自衛隊が夜間トラックで地区外に搬出する作業を実施した。



自衛隊による搬出作業

【今後の取組】

- 被災市町村が実施する災害廃棄物処理事業が円滑に進むよう継続して協力
- 災害廃棄物処理計画を未策定の市町村において、国と連携して計画策定を支援していく

3 「生業」の再建

3-1 産業の復興

【取組の進捗状況】

● 被災の状況

- 被災中小企業等 888者、被害額 46,416百万円(令和2年1月31日現在)

● 事業の再開状況

- 被災事業者の復旧状況



※ その他：他の要因で休業、廃業など

● 支援制度の活用

- グループ補助金(県)：認定36グループ、交付決定 319者(うち28者をR3年度へ繰越予定)
- 企業再建補助金(県)：交付決定 67者
- 持続化補助金・台風19号型(国)：採択事業者 503者

※ 商工会・商工会議所を通じて補助

【取組の進捗状況】

● 主な復旧事例

- みそ製造業(長野市):グループ補助金を活用し、工場を再建

工業技術総合センターによる微生物の抽出や地域の方々による復活活動を通じ事業を再興



- 様々な業種の事業者の復興を支援



印刷業



砕石業



農業(農産物直売所)

【課題と今後の取組】

- 施設の工事・設備の導入が遅れ、復旧が長期化する事業者

→ 予算を繰越し、引き続き復興を支援

- 補助金により施設・設備は復旧したが、顧客が戻らない等 様々な事情により、売上が回復しない事業者

→ 事業継続のため、中小企業振興センターやテクノ財団と連携し販路開拓や研究開発を支援

- 今回の被災を通じて明らかになった、BCPを

策定していない事業者や、これまでに支援制度を活用したことがない事業者

→ 商工会・商工会議所・業界団体が実施するグループ活動を通じ、BCPの策定支援を行うとともに、復旧事例や支援制度活用のポイントを紹介する啓発活動を実施



食品製造工場の建替（令和3年2月22日撮影）

3-2 農業の復興

【取組の進捗状況】

● 農地の復旧

- 千曲川の氾濫により堆積した土砂やゴミについて、農業ボランティアによる排土や国庫補助の災害復旧事業により、すべての撤去が完了

| 市町村 | 撤去対象 (ha) | | 進捗状況 (完了時期) |
|------|-----------|-----|----------------|
| | 堤内地 | 堤外地 | |
| 長野市 | 117 | 174 | 完了 (R2. 5月) |
| 須坂市 | 3 | 37 | 完了 (R2. 6月) |
| 千曲市 | 2 | 21 | 完了 (R2. 7月) |
| 坂城町 | - | 3 | 完了 (R2. 4月) |
| 小布施町 | - | 31 | 完了 (R2. 6月) |
| 中野市 | 30 (無堤地) | | 完了 (R2. 5月) |
| 計 | 418 | | |



【農業ボランティアによる果樹園の土砂・ゴミの撤去】

千曲川沿いの6市町で
果樹園等の土砂撤去作業が完了

【取組の進捗状況】

● 営農の再開支援

＜果樹園・畑（主に長野・北信地域）＞

- ・ 被災したりんご、もも、長いも等について、春先から平年並に作業が実施され、営農を再開

【りんごの営農再開状況】

- ・ 園地に土砂が堆積
- ・ 樹上にゴミが引っかかっている



- ・ 春先からの防除作業や摘果作業は平年並に実施
- ・ 概ね順調に生育し、平年並みに収穫終了

須坂市

被災時



営農再開



【長いもの営農再開状況】

- ・ 畑に土砂が堆積
- ・ 支柱が倒れ、葉も泥だらけ



- ・ 春掘りを平年並に実施
- ・ 5月の少雨により萌芽期がやや遅れたが、その後は順調に生育し、平年並みに収穫終了

長野市

被災時



営農再開



【取組の進捗状況】

● 営農の再開支援

＜水田（主に佐久・上田地域）＞

- 取水施設の被災で影響を受けた水田約1万haのうち、99%で取水期（令和2年4月）までに本復旧又は仮復旧により農業用水を確保し、営農を再開

| 区分 | 箇所数 (箇所) | 受益面積 (ha) |
|---------------|-------------|-----------------|
| 被災した 取水施設※ | 330 | 9,918 (100%) |
| R2 通水 | | |
| 可 | 318 | 9,838 (99%) |
| 不可 | 12 | 88 (1%) |
| R3 通水 | | |
| 可 | 323 | 9,842 (99%) |
| 不可 | 7 | 76 (1%) |

※災害復旧事業の対象に限る

- 用水が確保できなくても、作付けが可能な農地では、極力、大豆等の代替作物を栽培するよう、代替品目の選定、栽培技術の指導を行うとともに、転作作物への交付金の活用を周知するなどの支援を実施

| 代替作物品目 | 市町村 |
|--------------------|-----|
| 大豆 | 東御市 |
| 飼料用作物 (とうもろこし等) | |
| その他 (自家用野菜等) | |



【取組の進捗状況】

● 生産施設・農業機械の復旧

- 集出荷施設・加工施設等について、国の支援事業を活用し、施設の復旧工事を実施

＜復旧状況＞

農産物直売所「JAアグリながめま」 R2.4.29に再開

長野平ライスセンター R2.6.30に復旧完了

長野平フルーツセンター R2.9復旧完了

グループ補助金

(中小企業組合等共同施設等災害復旧事業)

強い農業・担い手づくり総合支援交付金

浸水被害を受けた長野平ライスセンターの米倉庫の復旧が完了

(Build Back Betterのポイント)

- 復旧した冷蔵庫について、電源装置や冷却機の位置を1.5m嵩上げし、より災害に強い施設にした

長野市

復旧前



復旧完了



- 被災した農業機械や格納庫、農業用ハウス等の修繕・再建、撤去について、国の支援事業により、市町村と協調して県の上乗せ補助を行い、支援を実施

○ 国の支援事業 強い農業・担い手づくり総合支援交付金(被災農業者向け)

○ 補助率(農業機械、格納庫、農業用ハウス等) 国:5/10以内 県:2/10以内 市町村:2/10以内

○ 実施状況

| 市町村数 | 件数 | 事業費 |
|------|-------|-------------|
| 26 | 8,026 | 6,857,627千円 |

【取組の進捗状況】

● 農業用施設の復旧

浸水した小森第1排水機場の復旧

(Build Back Betterのポイント)

- 排水機場の浸水による再度災害を防止するため、電気設備を嵩上げして設置



損壊した水路（サイホン）を撤去し、新しい管を設置

(Build Back Betterのポイント)

- 再度災害を防止するため、水路（サイホン）の周りをコンクリートで補強



損壊した農道を復旧



【課題・今後の取組】

● 営農の再開支援

＜果樹園・畑＞

- 一部で改植が必要な樹園地は、果樹産地再生支援対策(国庫)を活用して順次改植を実施
- 一部、苗木の手配が間に合わない、営農再開後に枯死した(主にもも等の核果類)等の理由による改植について、令和3年以降を含めて対応

| 改植時期 | 改植面積 | |
|------|-----------|--------|
| | 9/2現在 | 2月末現在 |
| R1年 | 1.2ha | 1.2ha |
| R2年 | 174ha(見込) | 22.7ha |
| 合計 | 175.2ha | 23.9ha |



【ももの改植状況】

※当初、多くの樹体で、改植が必要と見込まれていたが、樹勢が回復し、通常通り生育ができるようになった。

＜水田＞

- 大規模な土砂流入等で復旧に時間を要する農地は、河川の護岸復旧工事と並行して復旧する必要がある、災害復旧事業を活用して実施中
- 災害復旧事業の現場指導、計画変更手続など、市町村への技術支援を引き続き実施

● 生産施設・農業機械の復旧

- 農地の復旧完了後に着手する生産施設等で、一部完了が遅れている施設等について、令和3年度中に完了するよう支援

3-3 観光の復興



【取組の進捗状況】

1 令和元年東日本台風災害への対応(令和元年度の取組)

● 旅行・宿泊商品に対する支援(割引)による需要喚起

・「ふっこう割」による国内外の旅行者を対象にした商品の販売【観光部】

(令和元年12月17日～令和2年3月14日宿泊分(12/28～1/3宿泊分を除く))



○販売(割引)額 3億6,672万円(国内客2億8,582万円、海外客8,090万円)

○延べ宿泊者数 80,971人泊(国内客61,648人泊 海外客 19,323人泊)

・信州まつもと空港発着路線を利用した応援ツアーの造成【企画振興部】

● 心を一つにするためのアイコン「ONE NAGANO」の発信【営業局】

・民間放送局5局連携テレビCM「ONE NAGANO CMキャンペーン」



● 物産・観光両面からの被災地支援

・無印良品銀座での被害りんご販売【営業局】

・JR長野駅への被災農家応援バナー掲出【営業局】



ONE NAGANO CMキャンペーン



被災農家応援バナー



被害りんご販売



応援ツアー造成

2 台風災害をはじめ、昨冬の少雪や新型コロナウイルス感染症の影響等へ対応 —新型コロナウイルス感染防止対策にがんばって取り組む事業者を応援— (令和2年度からの取組)

● 旅行・宿泊商品に対する支援(割引)による需要喚起

(1) 宿泊割【観光部】

- ・「県民向けふっこう割(6月)」から「新たな旅のすゝめ-春割-(2月~)」まで、9事業で切れ目のない支援 (11億8,487万円/283,385人泊)

(2) 観光クーポン、アクティビティ割引【観光部】

- ・観光クーポン(7月~9月) (3億5,544万円/710,869枚)
- ・冬のアクティビティ(11月~) (4,341万円/20,181人)
- ・スキーリフト券半額キャンペーン(2月~) (1億5,800万円/69,000人)



スキーリフト券半額
キャンペーン

● 物産・観光両面からの被災地支援

(1) 銀座NAGANO6周年感謝祭での取組【営業局】

① 被災地りんごの販売(10月24日~25日)

- ・千曲川流域で収穫された「シナノスイート」、「シナノゴールド」を店頭にて1個100円で販売

② 知事によるりんごPR(10月25日)

- ・被災地支援への感謝の気持ちを込めて、店頭にて、知事より被災地りんごをお客様にプレゼント

(2) 長野市復興記念事業「いまこそ応援「がんばろうNAGANO」2020」への支援

- ・被災地デジタルスタンプラリー(10~11月) ・被災地物産展(11月7日~8日)



被災地りんごの販売

【課題と今後の取組】

- ・感染状況に応じて切れ目なく施策を実施し、被災地をはじめとした県内観光需要の早期回復を図る。
- ・「Afterコロナを見据えた観光振興方針」に基づき、長期滞在型観光の推進やリピーターの獲得に向け、新たな観光ニーズに合わせた需要喚起や地域連携等による新規誘客を推進

4 インフラの復旧

4-1 インフラの復旧

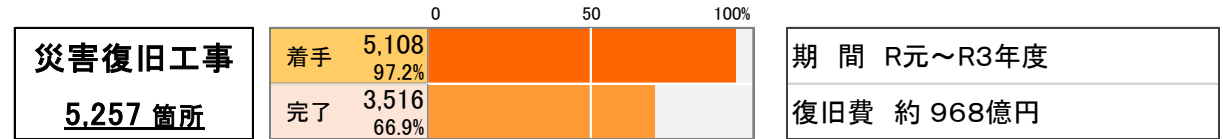
【取組の進捗状況】

● 災害復旧事業(改良復旧除く)

- ・災害復旧工事(市町村工事を含む)は約97%に着手し、約67%が完成(農地を除く施設復旧完了は約47%)
- ・県が管理する河川、砂防災害のうち、背後地等に人家や公共施設がある優先度の高い現場は、出水期(令和3年6月末)までに完了予定(河川砂防の約7割の完了予定)
- ・残った箇所も令和4年6月出水期までには完了する見込み

【被災箇所における住民の警戒・避難体制】

- ・復旧中の箇所においては、雨量計や水位計、土石流センサー等を設置し、危険な状況となった場合に避難を呼びかける連絡体制を構築



事業種別 進捗状況

※箇所数により算出。改良復旧の親災を除く。復旧費は査定決定額による。

| 項目 | 箇所数 | 上段 : 済・率(本工事着手) | 下段 : 済・率(工事完了) | 備考 (復旧事業の概要等) |
|-------|------------|-----------------|----------------|---|
| 河川 | 781 | 777 99.5% | 259 33.2% | 期 間 R元～R3年度 復旧費 約268.2億円 |
| 道路 | 442 | 427 96.6% | 320 72.4% | 期 間 R元～R3年度 復旧費 約88.2億円 橋梁 : 31ヵ所 |
| 砂防 | 67 | 67 100% | 9 13.4% | 期 間 R元～R3年度 (災害関連はR2年度) 復旧費 約50.3億円 |
| 林務施設 | 226 | 177 78.3% | 108 47.8% | 期 間 R元～R3年度 復旧費 約28億円 |
| 農地 | 2,911 | 2,885 99.1% | 2,465 84.7% | 期 間 R元～R3年度 復旧費 約169.6億円 |
| 農業用施設 | 756 | 703 93.0% | 307 40.6% | 期 間 R元～R3年度 復旧費 約149.3億円 |
| 下水 | 44 | 44 100% | 24 54.5% | 期 間 R元～R3年度 復旧費 約183.4億円 (農業集落排水含む) |
| 都市公園 | 19 | 19 100% | 15 78.9% | 期 間 R元～R2年度 復旧費 約7.8億円 |
| 公営住宅 | 9 (団地数) | 9 100% | 9 100% | 期 間 R元～R2年度 復旧費 約3.7億円 |

【取組の進捗状況】

● 災害復旧事業(河川)

一級河川 雨川 佐久市 新宮代橋



発災直後(令和元年10月)



工事竣工(令和2年10月)

(Build Back Betterのポイント)

河床洗堀などの被災原因を考慮し、護床ブロックを投入し河床の変動を抑えることにより再度災害防止を図った。

【取組の進捗状況】

● 災害復旧事業(道路)

県管理道路の規制状況

| 台風による規制 | R3.3.1時点の規制 |
|------------------------|--------------------|
| 120路線191区間 (事前規制含む) | 8路線8区間 (全面通行止め) |

解除見込み

| R2年度 | R3年度 |
|------|------------------------|
| 3区間※ | ※2区間は冬期閉鎖区間のため、令和3年度解除 |
| | 3区間 |
| | 2区間 |

※天候等の影響により変更となることがあります

主要地方道 丸子東部インター線 東御市 田中橋



発災直後(令和元年10月)



開通(令和2年3月)

(Build Back Betterのポイント)

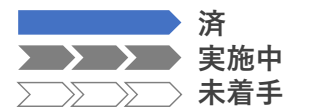
河床洗堀などの被災原因を考慮し同等規模の台風でも侵食を受けないように、ブロック積みを深く設置することにより再度災害防止を図った。

【取組の進捗状況】

● 改良復旧事業

- ・佐久市田子川等16箇所(市町村2箇所含)で改良復旧事業を実施
- ・令和3年度から令和5年度の完成目標で事業を推進し、2箇所が完了

令和3年2月末時点



| 事業 | 路線・河川名 | 市町村 | 箇所 | 内容 | 地元説明 | 測量設計 | 用地調査 | 用地補償 | 工事 |
|-------------|-----------------|------------------|---------------|-------|------|------|------|------|-----|
| 災害復旧助成事業 | (一) 谷川 | 佐久市 | 入沢 | 護岸 | 済 | 実施中 | 実施中 | 実施中 | 実施中 |
| | (一) 田子川 | 佐久市 | 常和 | 護岸 | 済 | 実施中 | 実施中 | 実施中 | 実施中 |
| | (一) 滑津川 | 佐久市 | 石神 | 築堤・護岸 | 済 | 実施中 | 実施中 | 実施中 | 実施中 |
| | (一) 千曲川 | 佐久市 | 桜井 | 遊水池 | 実施中 | 実施中 | 未着手 | 未着手 | 未着手 |
| | (一) 千曲川 | 野沢温泉村、 栄村～飯山市 | 東大滝、 箕作・月岡 | 築堤・護岸 | 済 | 実施中 | 済 | 実施中 | 未着手 |
| 災害関連事業 | (準) 南沢(砂防) | 佐久市 | 常和南 | 溪流保全 | 済 | 実施中 | 実施中 | 実施中 | 実施中 |
| | (一) 沢山川 | 千曲市 | 雨宮 | 矢板護岸 | 済 | 済 | — | — | 済 |
| | (一) 余地川 | 佐久穂町 | 余地 | 護岸 | 済 | 実施中 | 実施中 | 実施中 | 実施中 |
| | (一) 抜井川、余地川合流 | 佐久穂町 | 海瀬 | 護岸 | 済 | 実施中 | 実施中 | 実施中 | 実施中 |
| | (一) 抜井川 | 佐久穂町 | 向原 | 護岸 | 済 | 実施中 | 実施中 | 実施中 | 実施中 |
| | (主) 梓山海ノ口線 | 川上村 | 男橋 | 橋梁 | 済 | 実施中 | — | — | 実施中 |
| | (準) 小川(砂防) | 川上村 | 居倉 | 溪流保全 | 済 | 済 | — | — | 実施中 |
| | (主) 大町麻績インター千曲線 | 生坂村 | 込地 | 拡幅 | 済 | 済 | — | — | 済 |
| | (主) 豊野南志賀公園線 | 高山村 | 八滝 | 拡幅 | 済 | 済 | 済 | 済 | 実施中 |
| 災害関連事業(市町村) | (市) 布下滋野線 | 東御市 | 布下橋 | 橋梁新設 | 済 | 済 | 済 | 済 | 実施中 |
| | (普) 高岡川 | 長野市 | 若穂保科 | 護岸 | 済 | 済 | 済 | 済 | 実施中 |

【取組の進捗状況】

● 改良復旧事業(完了箇所)

- ・主要地方道 大町麻績インター千曲線 生坂村 込地

○事業内容

復旧延長 L=30m(災害復旧L=16m改良復旧L=14m)
張出ブロック設置L=30m
基礎鋼管杭工N=30本
舗装工L=30m



発災直後(令和元年10月)



工事竣工(令和2年10月)

(Build Back Betterのポイント)

被災箇所(L=16m)とその前後の未災箇所(L=14m)を含む区間の道路擁壁等を一連で改築し、降雨に強くすることにより再度災害防止を図った。

【取組の進捗状況】

● 改良復旧事業(完了箇所)

あめのみや

- ・一級河川 沢山川 千曲市 雨宮

○事業内容

復旧延長 L=232m(災害復旧L=155m改良復旧L=77m)

コンクリートブロック張工L=232mA=2,389m²

遮水矢板工L=232m



発災直後(令和元年10月)



令和3年3月竣工予定

(Build Back Betterのポイント)

被災箇所(L=155m)とその前後の未災箇所(L=77m)を含む区間のコンクリートブロック張り護岸を一連で改築し、洪水に強くすることにより再度災害防止を図った。

【取組の進捗状況】

● 改良復旧事業(工事中箇所)

いしがみ

・一級河川 滑津川 佐久市 石神

○事業内容

復旧延長 L=1050m(災害復旧L=562m改良復旧L=1050m)

築堤盛土工 L=1050mV=39,990m³

護岸工 L=320mA=5,730m²



(Build Back Betterのポイント)

破堤した堤防のかさ上げと堤防幅を拡幅し再度災害防止を図っている

【取組の進捗状況】

● 土砂災害対策

- ・緊急に行う土砂災害対策として、全23箇所では着手済み。
- ・強靱ワイヤーネット、工事用道路等の準備工は完了し、砂防堰堤等の本体工事を実施中
- ・さらに継続して行う土砂災害対策として、令和2年度に15箇所を新規採択し、調査設計を実施中。令和3年度以降、順次、砂防堰堤等に着手予定

【施工状況】

災害関連緊急砂防事業
○上田市 見切沢 虚空蔵



(Build Back Betterのポイント)
流出した土砂が再度流れ出すのを防ぐため、砂防堰堤等を整備



【施工状況】

災害関連緊急急傾斜地崩壊対策事業
○佐久市 入沢口区域 入沢

(Build Back Betterのポイント)
がけ崩れの拡大を防ぐため、法面工等を整備



【取組の進捗状況】

● 林道施設災害復旧事業 路肩決壊の復旧



林道鴻ノ巣富士山線(上田市)
幅員:4.0m、延長:28m 被害額17,213千円

【復旧工法】 盛土932 m^3 、大型カゴ工24m、
法面保護工449 m^2 ほか

(Build Back Betterのポイント)

雨水の集中による林道の路体・法面崩落などの被災形態を考慮し、大型カゴ工設置による盛土法尻の安定及び法面保護工により路肩決壊の防止を図った。

● 災害関連緊急治山事業 山腹崩壊の復旧



上田市 鹿教湯(上田市)

【復旧工法】 山腹工0.20ha、法枠工1,300 m^2

(Build Back Betterのポイント)

法面への集中豪雨により立木と共に崩壊した山腹法面を、倒木の除去、法面整形を行った後、斜面の風化、浸食及び崩壊の防止を図るための「法枠工(コンクリート)」を施工して、山腹の崩落拡大の防止を図った。

【取組の進捗状況】

● 国土交通省による対策

(1) 千曲川長野市穂保地区の復旧

- ・決壊箇所を含む延長140m間の川表側及び川裏側(住宅地側)の法面について、コンクリートブロックによる補強と天端保護工が完了
- ・140m間を含む前後560m間については、川裏側(住宅地側)法面のコンクリートブロックによる補強と天端保護工が完了
- ・現在、川表側(河川側)法面のコンクリートブロックによる補強を実施中

(2) 穂保地区以外の越水による堤防被災箇所

- ・堤防川裏の法面が崩れた4箇所について、堤防の復旧が完了
- ・現在、川表側の護岸復旧工事を実施中

(3) 権限代行による災害復旧箇所

- ・東御市千曲川海野地先～田中地先等4箇所では護岸復旧は完了し、現在、根固工を実施中
- ・東御市海野地先の復旧工事は、護岸工の不具合が令和2年10月に確認されたため、現在、令和3年6月上旬の完成を目標に再施工を実施中
- ・国道361号 権兵衛峠道路災害復旧は、令和2年10月8日に対面通行となり、令和3年3月に事業完了予定

【復旧状況】



【再施工中】東御市 海野地先



【施工中】佐久市 原地先



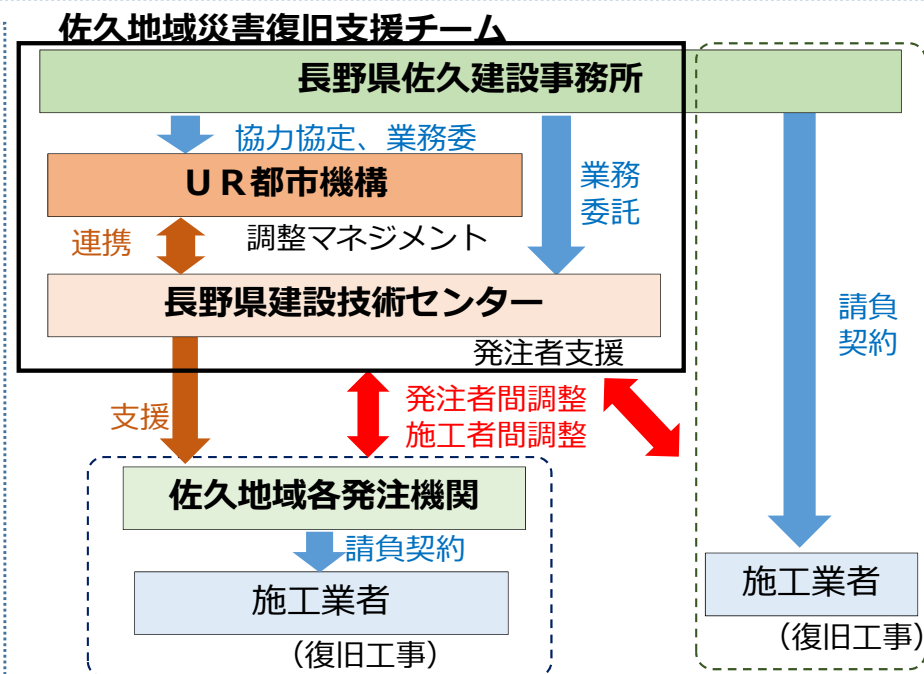
【完了】小海町 東馬流地先

【課題】

- 災害復旧工事が本格化する時期における資機材の確保、調整
 - ・ 本格的な復旧工事の稼働により、生コンクリートやコンクリート二次製品等の資機材について、市町村、農業施設を合わせた確保、調整が必要
- 改良復旧の課題
 - ・ 用地買収や家屋移転が必要となる箇所が多いため、事業計画段階から地元説明会等を開催し、地域の了解を得ているが、引き続き、地権者との協議を丁寧に進めることが必要。
- 林務関係施設災害復旧の課題
 - ・ 公共工事の発注件数増加及び現場条件が厳しいことから、入札不調・不落の割合が多い。

【今後の取組】

- ・ 被災箇所が特に多かった佐久地域では、令和3年度も災害復旧工事マネジメント業務を引き続き導入し、工事の効率化や建設関連企業間の地域内での情報共有、連携強化を図る。
- ・ 地域との連携を着実にいき、事業進捗を図る。
- ・ 入札に当たって、地域ごとに発注ロットを集約する等入札要件を考慮した発注を進める



【災害を踏まえた取組】

● 台風災害を踏まえた各種対策

＜既存施設を活用した対策＞

- ・ダム of 事前放流を利水ダムを含めて令和2年5月29日から運用開始

＜緊急時に備えた対策＞

- ・排水ポンプ車の増強のため、2台配備（長野、松本）
- ・浅川第一排水機場故障に伴う対応は、仮設ポンプ（市）及び排水ポンプ車（国・県）により対応

＜情報提供に係る対策＞

- ・浸水想定区域図、法定34河川は令和元年度に策定。令和2年度末、101中小河川の策定が完了予定
- ・令和2年度末に危機管理型水位計を300基、簡易型河川監視カメラを196基、設置完了
- ・防災情報の提供体制強化として、ケーブルテレビ2社による防災情報の提供を開始。放映局拡大を調整中
- ・河川砂防情報ステーションのアクセス集中によるサーバーダウンを防ぐため、処理能力の強化を令和2年6月に実施済。さらに令和2年度、サーバーを1台増設完了

令和2年7月豪雨において、状況確認にカメラ映像を活用

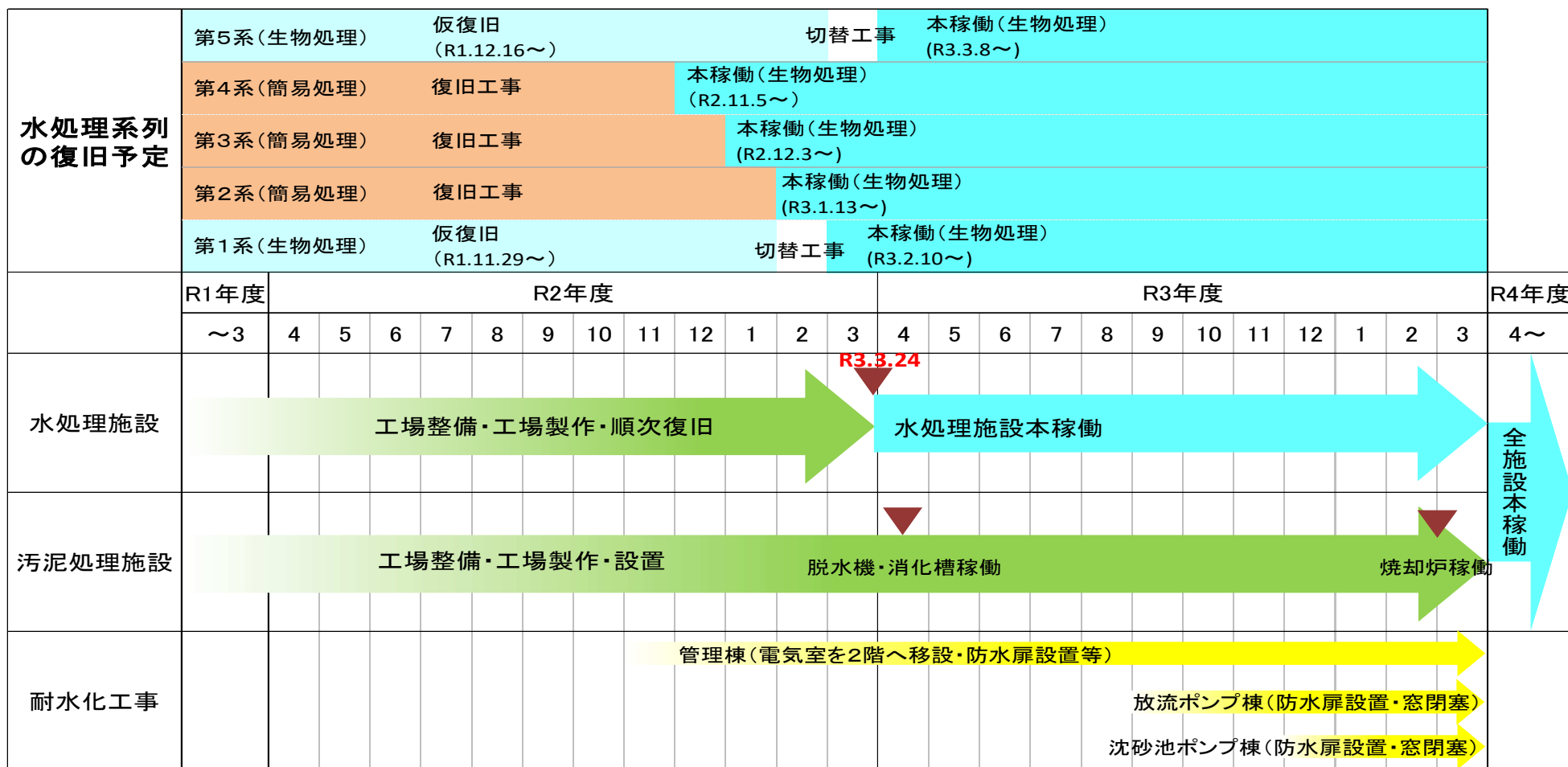


4-1 インフラの復旧（下水道）

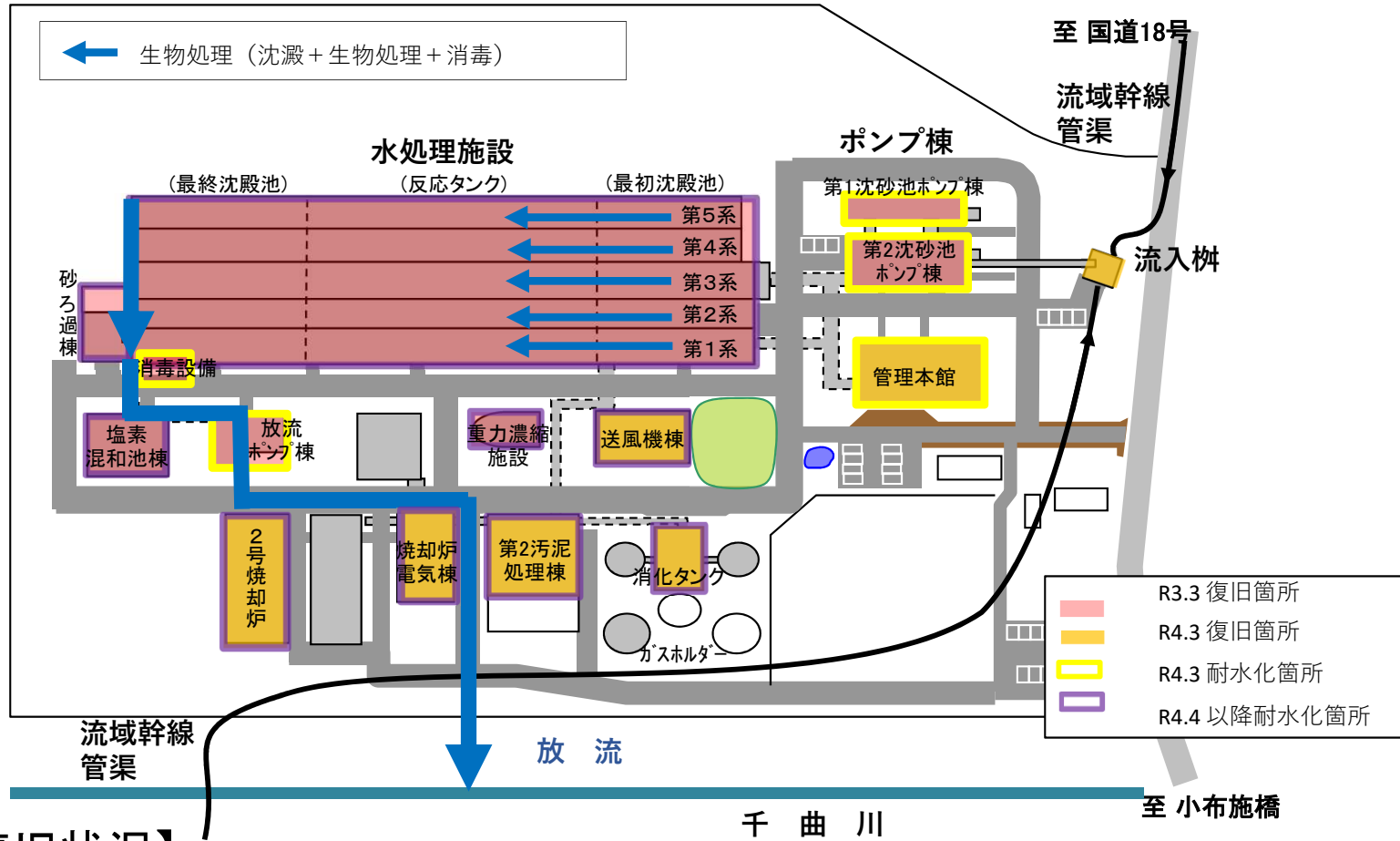
【取組の進捗状況】

● クリーンピア千曲の復旧

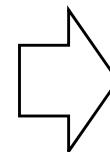
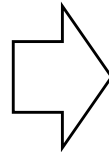
- ・ 令和3年3月24日から全水処理施設本稼働
- ・ 施設全体の復旧は令和4年3月末までに完了する計画



【取組の進捗状況】



【水処理施設復旧状況】



【取組の進捗状況】

● 施設の耐水化

- 1/100確率の浸水に対応した施設の耐水化を並行して進める



(Build Back Betterのポイント)
再度の災害防止策として電気設備の上階への移設、耐水扉の設置、開口部の閉塞を行う

【課題・今後の取組】

- 地域等へ情報提供を行いながら、早期復旧を進めていく

4-1 インフラの復旧（鉄道）

【取組の進捗状況】

● 上田電鉄(株)別所線の復旧

- 千曲川左岸堤防の洗堀により、上田電鉄(株)別所線上田駅～城下駅間の橋梁が落橋。
- 非出水期に入った令和元年11月より、調査・測量、橋桁の撤去、堤防本復旧に合わせた橋台構築・橋脚補強等、復旧工事を順次実施。
- 復旧にあたり、橋梁を上田市が保有し、国の「特定大規模災害等鉄道施設災害復旧事業費補助金」を活用。
- 復旧工事は順調に進み、令和3年3月28日に全線運行再開予定。

上田電鉄(株)上田駅～城下駅間橋梁



● 不通区間における代替輸送の実施

- 上田電鉄(株) 別所線 上田駅～下之郷駅間(R1.10.15～11.15)、しなの鉄道(株) しなの鉄道線 田中駅～上田駅間(R1.10.23～11.14)、において、代替輸送を実施。
- 上田電鉄(株)別所線は、現在も上田駅～城下間が不通となっており、復旧後全線再開までの間、バスによる代替輸送を継続中。

上田電鉄



| | | |
|------|------------------------------|----------|
| 運行期間 | R1.10.15～R3.3.27(予定) | |
| 輸送方法 | バス | |
| 利用者 | 上田～下之郷間 (R1.10.15～11.15) | 2,950人/日 |
| | 上田～城下間 (R1.11.16～R3.2.28) | 1,574人/日 |

しなの鉄道



| | | |
|------|----------------------|--------------|
| 運行期間 | R1.10.23～11.14(23日間) | |
| 輸送方法 | バス・新幹線(便宜輸送) | |
| 利用者 | バス | 1,076人/(平日) |
| | 新幹線 | 1,443人/日(平日) |
| 備考 | 利用者は学生に限定 | |

【県の取組】

● 不通区間における代替輸送に対する支援

- 上田電鉄(株)別所線、しなの鉄道(株)しなの鉄道線全線運行再開までの間、バスによる代替輸送を継続し、国、沿線自治体とともに支援を実施

(上田電鉄支援)

(単位：千円)

| | 事業費 | 支援額 | | |
|-------|---------|---------|---------|-----------|
| | | 国 (1/3) | 県 (1/3) | 上田市 (1/3) |
| 令和元年度 | 48,506 | 16,168 | 16,168 | 16,168 |
| 令和2年度 | 122,976 | 32,000 | 45,488 | 45,488 |

※ 令和2年度事業費及び支援額は見込額、また令和2年度国支援額は上限あり

(しなの鉄道支援)

(単位：千円)

| | 事業費 | 支援額 | | |
|-------|--------|---------|----------|--------------|
| | | 国 (1/4) | 県 (9/16) | 沿線自治体 (3/16) |
| 令和元年度 | 65,285 | 16,321 | 36,722 | 12,241 |

【沿線地域等の主な取組(上田電鉄関係)】

- 募金活動、売上金の寄附(若林醸造 様、別所温泉旅館組合 様ほか)
- 別所線かけはしプロジェクト(長野大学生 有志の皆様)
- 「別所線」応援ポスターの作成(上田東ロータリークラブ 様)
- 上田市への寄附金(約8,200万円)※ ふるさと納税分
- 上田電鉄への寄附金(約1,700万円)※ ホームページ上募集分

【上田電鉄別所線全線開通セレモニー】

(出発式典)

日 時: 令和3年3月28日(日)11時から11時30分まで

場 所: 千曲川左岸堤防

主な出席者: 赤羽国土交通大臣(調整中)、国会議員、高橋東急電鉄株式会社社長、阿部知事、伊藤企画振興部長

※ 式典の様子は上田ケーブルテレビにより、インターネット(Youtube)でライブ配信予定



【取組の進捗状況】

● 北陸新幹線の復旧

【被害】

長野～飯山間の線路、長野新幹線車両センター構内及び新幹線車両（10編成120両）が冠水するなど甚大な被害が発生

2019年

- 10/13 長野新幹線車両センター浸水
- 10/25 東京～金沢間 直通運転再開(暫定ダイヤ)
- 11/30 東京～金沢間 直通定期列車 本数回復

2020年

- 3/14 定期列車運転本数回復(暫定ダイヤ終了)
※ 長野新幹線車両センター留置線一部復旧
- 12/25 長野新幹線車両センター 車両検査機能復旧

2021年度中

長野新幹線車両センター機能復旧の見通し



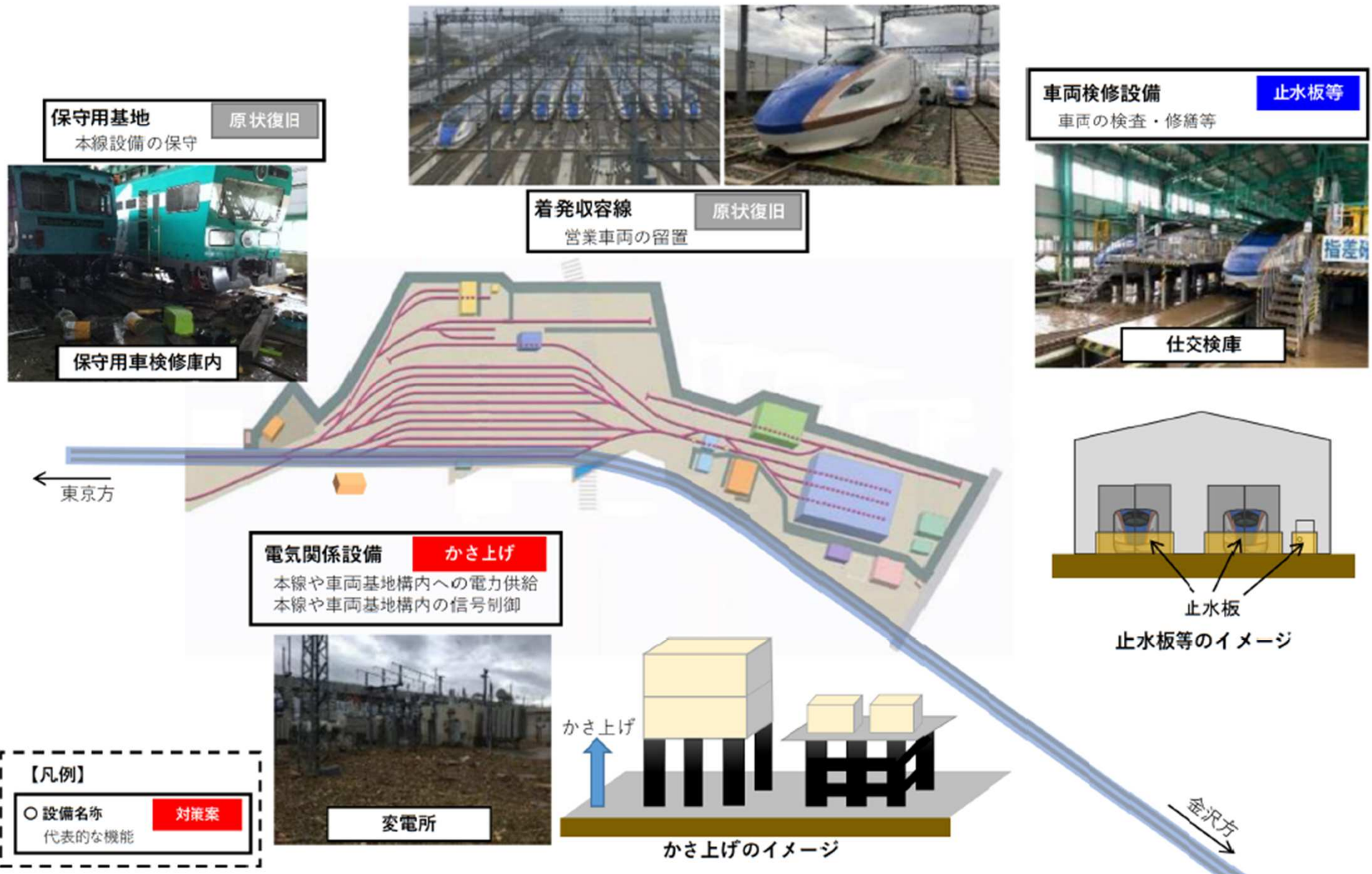
※写真:国土交通省資料より抜粋

【浸水対策】 令和元年東日本台風による被害を踏まえ、国土交通省が浸水対策を取りまとめ（R2.5/27）

- 車両基地及び車両に対する浸水対策（主なもの）
 - ・ 運行への影響が大きいと考えられる電気設備（変電所・信号機器室・補助信号機器室等）のかさ上げ等
 - ・ 車両検修庫等について、建屋開口部等に止水版又は止水壁等の設置
 - ・ JR各社が定めたそれぞれの車両避難計画に従って車両避難を実施する

【JR東日本の対応】 長野新幹線車両センターの被災設備浸水対策イメージ（別紙1）
車両避難訓練の実施（R2.9.29）

長野新幹線車両センターの被災設備浸水対策イメージ (JR東日本検討案)



4-2 「流域治水」の推進

- 令和元年東日本台風により、甚大な被害が発生した信濃川水系において国、県、市町村が連携し、「信濃川水系緊急治水対策プロジェクト」を進める。
- 国、県、市町村が連携し、①被害の軽減に向けた治水対策の推進【河川における対策】 ②地域が連携した浸水被害軽減対策の推進【流域における対策】 ③減災に向けた更なる取組の推進【ソフト施策】の取り組みを実施していくことで、信濃川本川及び千曲川本川の堤防で被災した区間で越水防止を目指す。



国土交通省資料より

■河川における対策

| | |
|------|--|
| 事業期間 | 令和元年度～令和9年度 |
| 目 標 | 【令和6年度まで】 令和元年東日本台風（台風第19号）洪水における ・千曲川本川の大規模な浸水被害が発生した区間等において越水等による家屋部の浸水を防止 ・信濃川本川の越水等による家屋部の浸水を防止 |
| | 【令和9年度まで】 令和元年東日本台風（台風第19号）洪水における ・千曲川本川からの越水等による家屋部の浸水を防止 |
| 対策内容 | 河道掘削、遊水地、堤防整備・強化 |

■流域における対策

- ・ため池等既存施設の補強や有効活用
- ・田んぼダムを活用した雨水貯留機能の確保
- ・学校グラウンドなどを活用した雨水貯留施設
- ・排水機場等の整備、耐水化の取組
- ・防災拠点等

■ソフト施策

- ・「まちづくり」や住まい方の誘導による水害に強い地域づくりの検討
- ・高床式住まいの推進
- ・マイ・タイムラインの普及
- ・公共交通機関との洪水情報の共有
- ・住民への情報伝達手段の強化

【信濃川水系緊急治水対策プロジェクト 主要対策の進め方】

上下流や本川支川の信濃川流域全体を見据え、

- 立ヶ花狭窄部上流の緊急的な堤防強化（粘り強い河川堤防構造）
- 下流から計画的に行う堤防整備や河道掘削（大河津分水路改修、立ヶ花狭窄部掘削）
- 上流で洪水を貯留するダム（大町ダム等再編）や遊水地の整備

といった河川におけるハード対策をフル動員し、各管理者が連携・調整しながら、段階的かつ緊急的に対策を講じる。



立ヶ花狭窄部掘削



堤防強化(粘り強い河川堤防)



大町ダム等再編事業

黒沢川遊水地

千曲川上流遊水地



大河津分水路改修事業



信濃川中流遊水地群

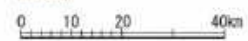


千曲川下流遊水地群



千曲川中流遊水地群

| 凡例 | |
|----|---------------|
| | 流域界 |
| | 界地 |
| | 河川 |
| | 既設ダム(直轄) |
| | 基準地点(高水) |
| | 基準地点(低水) |
| | 主要地点 |
| | 想定氾濫区域(国管理区間) |
| | 大県管理区間 |

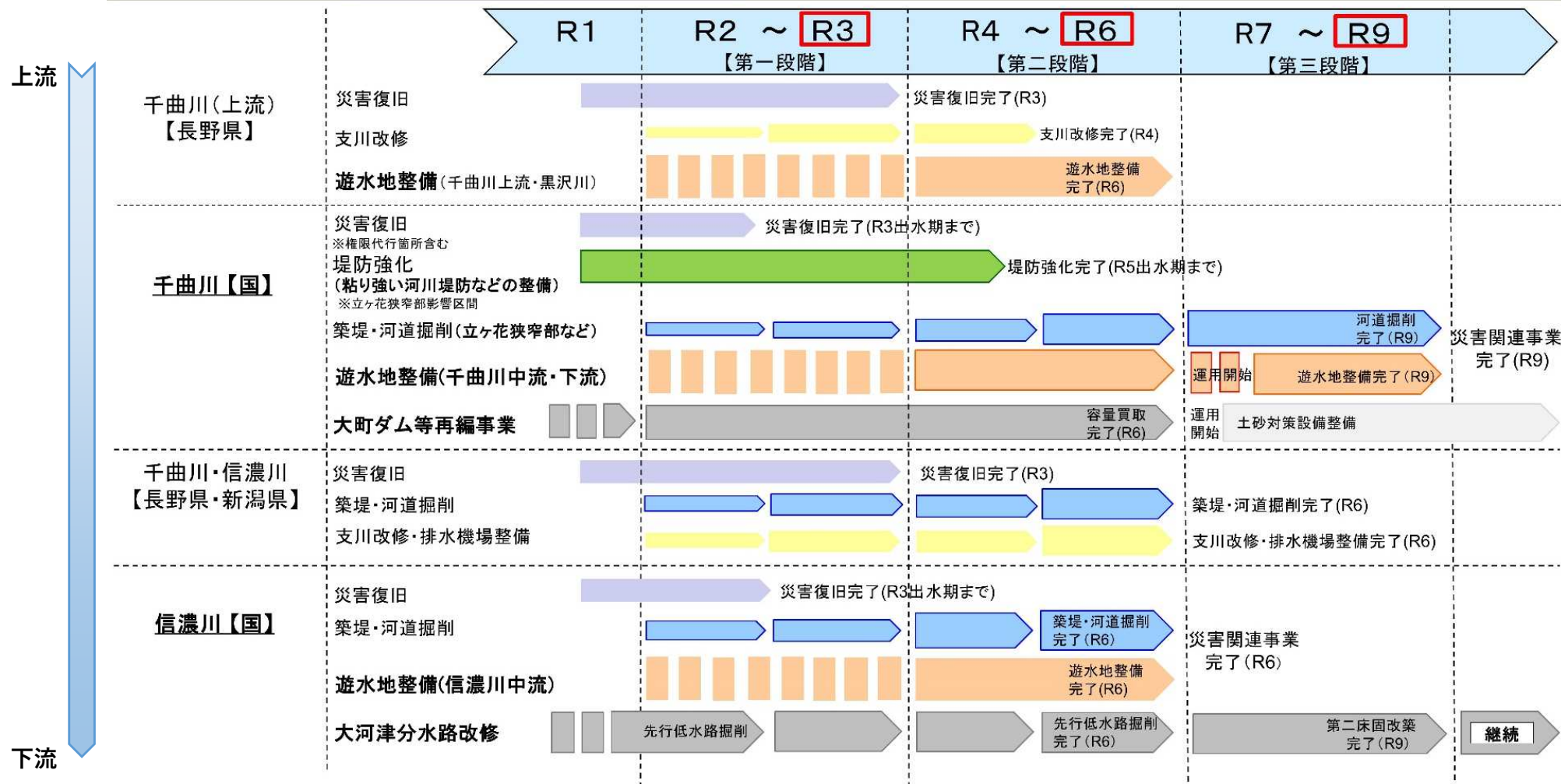


国土交通省資料より

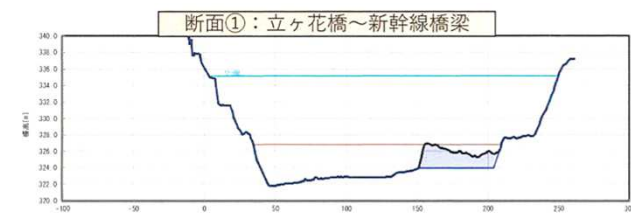
【信濃川水系緊急治水対策プロジェクト ロードマップ】

信濃川水系緊急治水対策プロジェクト ロードマップ

- 【第一段階(復旧)】 災害復旧を令和3年度までに完了(国(権限代行含む)は令和3年出水期まで、県は令和3年度)。並びに大河津分水路などの下流域の整備に応じた河道掘削(立ヶ花狭窄部など)を順次実施
- 【第二段階(復興)】 改良復旧である堤防強化(粘り強い河川堤防構造など)や遊水地、大町ダム等再編事業(容量再編)を完了
- 【第三段階(復興)】 遊水地、河道掘削(立ヶ花狭窄部など)を令和9年度完了



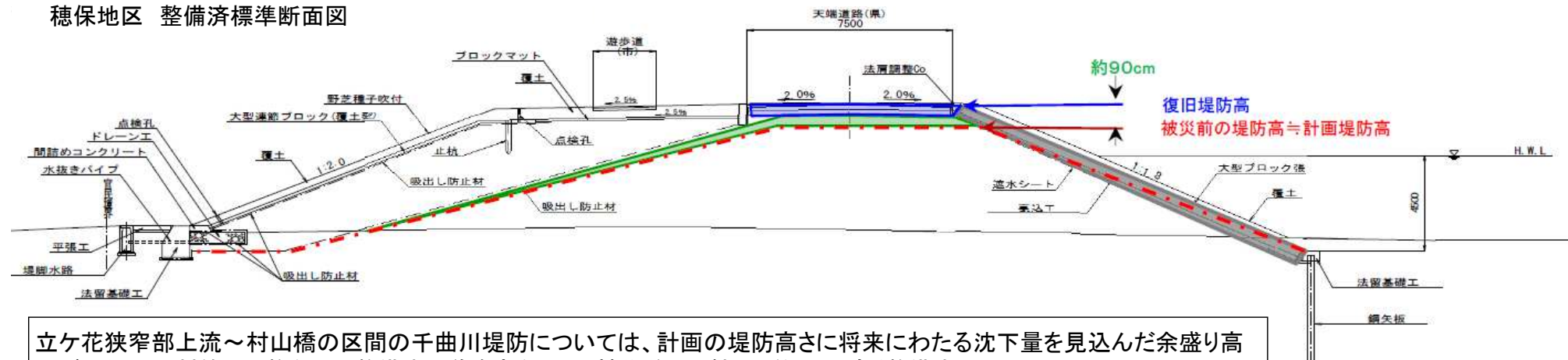
立ヶ花・戸狩狭窄部の掘削について



立ヶ花、戸狩狭窄部の信濃川水系緊急治水対策プロジェクトに位置付け、下流の整備進捗状況に併せ上下流のバランスを勘案しつつ進めることとしており、工事は令和3年2月から着手している。

堤防強化対策について

穂保地区 整備済標準断面図



立ヶ花狭窄部上流～村山橋の区間の千曲川堤防については、計画の堤防高さに将来にわたる沈下量を見込んだ余盛り高及び関係市町村等と調整を行い整備する道路高を加え、被災前と比較して約90cm高く整備することとしている。また、越水しても長く持ちこたえられるよう、全面被覆型による粘り強い堤防構造とする。

【信濃川水系緊急治水対策プロジェクト 直轄管理区間②】

遊水地計画位置図

国土交通省資料より

- 令和元年東日本台風に対する治水対策として、直轄管理区間において、5箇所の遊水地整備を予定。
- 令和6年度（若しくは令和9年度）までの遊水地事業完成を目指す。



※遊水地は現在計画検討中であり、範囲等は確定したものではありません。

● 長野県全体での「流域治水」の推進 ～「長野県流域治水推進計画」の策定～

趣 旨

関係者が意識を共有し、具体的な取組目標を定め、計画的に取り組む必要があることから、「長野県流域治水推進計画」を策定した。

内 容

「流域治水」の3つの柱のうち、堤防整備等の「河川整備の取組」は、河川整備計画等に基づき河川管理者が推進する。よって本計画では、対象を明確とするため、「流域における雨水貯留等の取組」、「まちづくりや住民避難の取組」の2項目に絞った計画としている。

期 間

令和3～7年度（5か年）

主な取組一覧

長野県流域治水推進計画

(1) 流域における雨水貯留等の取組 「留める」

- 公共施設における雨水貯留施設設置
- 市町村における各戸貯留施設設置費補助制度
- 雨水排水規制ガイドライン等の策定
- ため池や水田を活用した雨水貯留の取組
- 公共下水道(雨水)の整備
- 流域の森林整備
- 排水ポンプ車の配備

(2) まちづくりや住民避難の取組 「備える」～逃げ遅れゼロ～

- 危機管理型水位計・簡易型河川監視カメラの設置
- 浸水想定区域図の作成
- 住まい方の工夫の取組
- 要配慮者利用施設における避難確保計画の策定
- 地域特性に配慮した「地区防災マップ」の作成
- 防災知識の普及に関する取組
- 「災害時住民支え合いマップ」の作成

● 長野県全体での「流域治水」の推進 ～「長野県流域治水推進計画」の策定～

(1) 流域における雨水貯留等の取組 「留める」

降雨の河川への流入抑制や、市街地等の浸水被害軽減のため、降った雨を直接河川に流すのではなく、流域で雨水を「留める」ことを主体とした取組を推進します。

● 公共施設における雨水貯留浸透施設設置

県有施設や市町村施設での雨水貯留浸透施設の設置を進めます。また、来庁者に雨水貯留タンクを身近に見ていただくことにより必要性を認識していただき、民間事業者や個人の雨水貯留浸透施設の設置を促していきます。

◇目標: 県有施設におけるタンク設置 439基
雨水貯留浸透施設 20施設 等



雨水貯留施設設置例
(長野市豊野支所)



雨水貯留タンク
設置例

● ため池や水田を活用した雨水貯留の取組

ため池の管理者に対し、空き容量の確保による洪水調節効果を説明し、低水位管理の取組を開始します。また、洪水吐切り欠きの設置により流入水を貯留し、下流河川への流出を抑制します。

水田については、農業関係者の協力のもと、水田の排水口に調整装置を設置することにより、水田の雨水貯留能力を高め、下流河川への流出を抑制します。

◇目標: ため池を活用した雨水貯留の取組 404箇所
水田を活用した雨水貯留の取組 6市町村



ため池の低水位管理
実施例



水田排水口の
調整装置設置例

● 長野県全体での「流域治水」の推進 ～「長野県流域治水推進計画」の策定～

(2) まちづくりや住民避難の取組 「備える」 ～逃げ遅れゼロ～

市町村、民間事業者や県民と協働して、各地域の特性に応じた避難体制を構築するとともに、水害に備えたまちづくりの取組を推進します。

● 危機管理型水位計・簡易型河川監視カメラの設置

住民の迅速な避難行動に繋がるように、洪水等の出水時に観測に特化した水位計やカメラを設置し、リアルタイムの情報提供に努めていきます。

- ◇目標：危機管理型水位計設置 10基
- 簡易型河川監視カメラ設置 100基



簡易型
河川監視カメラ



危機管理型水位計

● 浸水想定区域図の作成

避難所の場所等を記載した、市町村が作成する「ハザードマップ」の基となる「浸水想定区域図」の作成を進めます。

- ◇目標：「浸水想定区域図」の作成 218河川



浸水想定区域図作成例

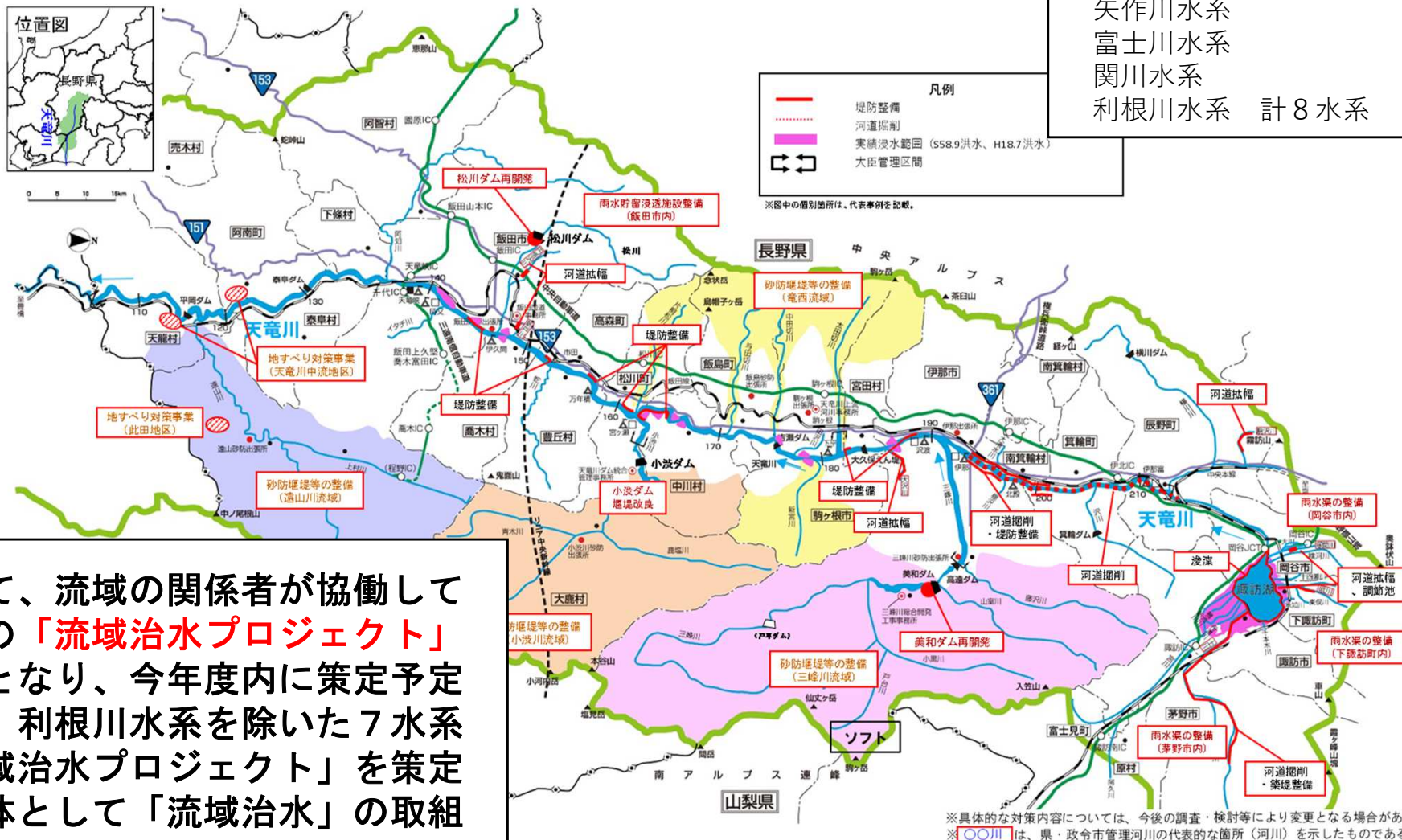
【災害を踏まえた取組】

● 長野県全体での「流域治水」の推進

流域治水プロジェクトとりまとめイメージ(天竜川水系)

長野県内の水系一覧

- 信濃川水系
 - 天竜川水系
 - 木曾川水系
 - 姫川水系
 - 矢作川水系
 - 富士川水系
 - 関川水系
 - 利根川水系
- 計 8 水系



各水系において、流域の関係者が協働して取り組むための「**流域治水プロジェクト**」を、国が中心となり、今年度内に策定予定長野県内でも、利根川水系を除いた7水系において「流域治水プロジェクト」を策定し、長野県全体として「流域治水」の取組を推進する。

4-3 「逃げ遅れゼロプロジェクト」の推進

○信州防災「逃げ遅れゼロ」宣言より

「「自らの命は自らが守る」認識のもと、自らの判断で避難行動をとる、という防災意識の高い社会を、一日も早く構築する必要がある。」

令和元年東日本台風災害を踏まえた防災・減災対策の取組

① 「逃げ遅れゼロプロジェクト」の強化・推進

・ 「信州防災アプリ」の構築

・ 率先安全避難者制度の運用

・ 防災情報システムの改修・更新

② 避難所TKBの環境改善向上

信州防災アプリ構築事業

「マイ・タイムライン」作成機能等を搭載したアプリをR3に開発

①防災県民手帳

事前に備えるべきことや、情報の意味を確認

| 事前の備え | |
|---------------|---|
| 地域の危険な区域を調べよう | > |
| 防災情報を入手しよう | > |
| 避難場所を調べよう | > |
| 家庭内備蓄を確認しよう | > |
| 非常持ち出し品を準備しよう | > |
| 室内を安全な空間に | > |
| 家の周囲の安全を確認しよう | > |
| 【資料編】安否確認 | > |
| 災害発生時の行動 | |
| 風水害 | > |
| 避難所生活 | > |

②マイ・タイムライン

避難に要する時間、避難先、災害時の行動を入力

| ユーザー情報 | | 編集 |
|---|--|----|
| 警戒レベル 1 | 早期注意情報 <small>(気象庁が発表)</small> | 編集 |
| 警戒レベル 2 | 洪水注意報 大雨注意報等 <small>(気象庁が発表)</small> | 編集 |
| 警戒レベル 3 <small>危険な場所から 高齢者等は避難</small> | 避難準備・ 高齢者等避難開始 <small>(市町村が発令)</small> | 編集 |
| 警戒レベル 4 <small>危険な場所から 全員避難</small> | 避難勧告 避難指示 (緊急) | 編集 |
| 警戒レベル 5 <small>※2</small> | 災害発生情報 | |

③行動の提案

入力や位置情報に応じプッシュ通知を行い避難を促す

| 長野市の方へ |
|--|
| 【避難に関する情報】 市町村内に避難勧告が発表されました。今すぐ危険な場所から全員避難を！ |
| 【現在地の災害リスク】 川があふれた場合3～5mの浸水が予想されています。 |
| 【取るべき行動の提案】 ・周囲の状況を確認し、立ち退き避難を行ってください。 ・既に避難が危険と感じた場合などは出来るだけ高層階へ避難を行ってください。 |
| 【リンク】 → 避難所が分からない方へ → 避難勧告が出ている地域を確認 → 川の水位はここまで来ています |

避難所TKBの環境改善向上

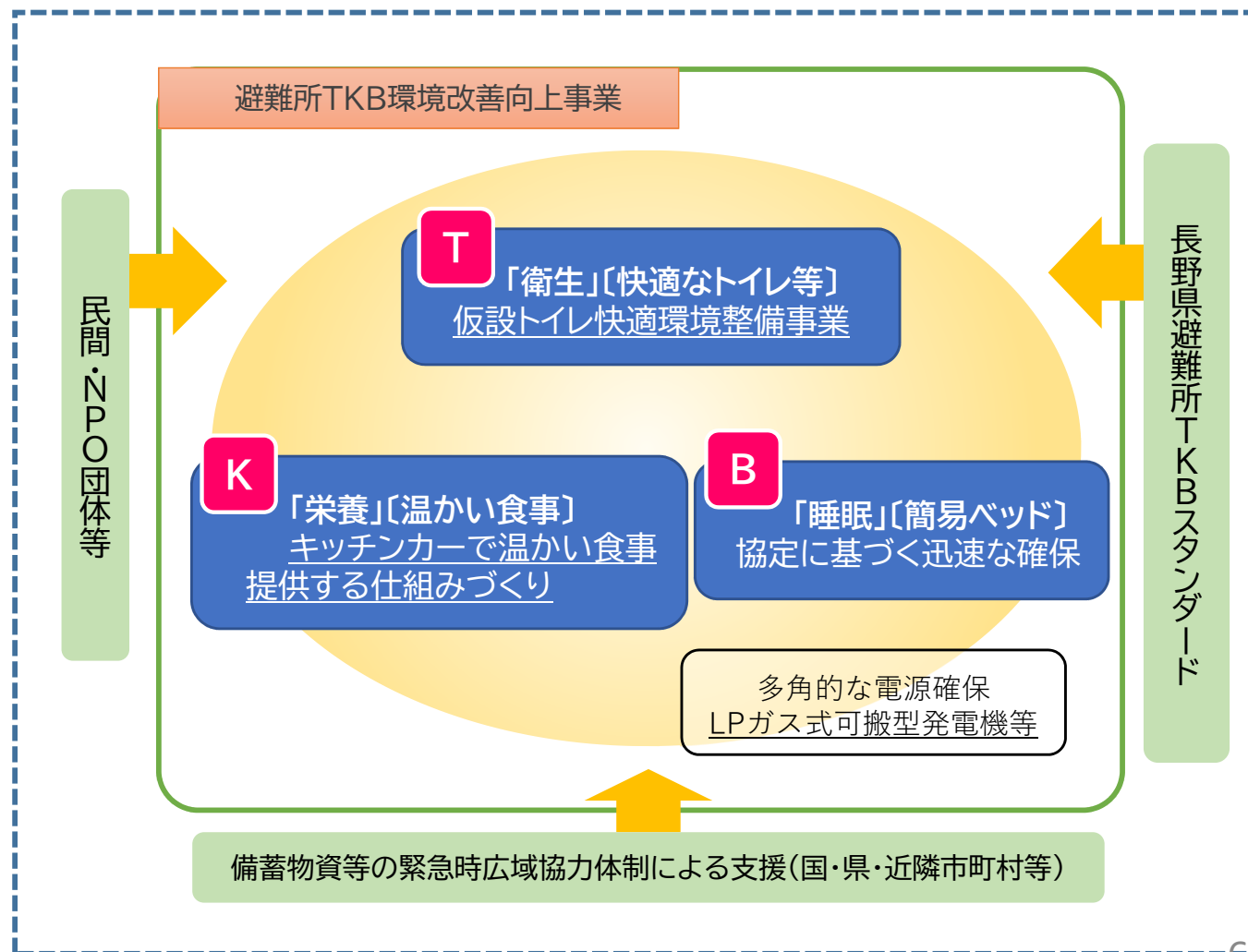
【事業概要】

県・市町村・NPO団体等と連携し、避難所のTKB（トイレ・キッチン・ベッド）の環境改善に取り組み、大規模災害発生時の避難所環境の向上につなげる。

【課題と対応】

（課題）

| | |
|------|----------------------------|
| トイレ | 不便で不衛生なトイレ 「和式」「汚い」「段差」 |
| キッチン | 冷たい・味気ない食事 不安定な炊き出し |
| ベッド | 床で雑魚寝・床からの 飛沫感染のリスクの高まり |



○長野県避難所TKBスタンダード

大規模災害発生時における避難所TKBの目指す姿を、県、市町村、NPO、民間団体等の力を結集して取り組むことが重要。

【概要】

| 項目 | 長野県避難所TKBスタンダードの目標 | | 目標に対する県の 主な取組み（時期） |
|-----------------------|--|--|--|
| | 3日以内 | 7日以内 | |
| 前提条件 | <ul style="list-style-type: none"> 避難所が停電・断水している。 道路は使用できる。 | <ul style="list-style-type: none"> 停電・断水は解消されている。 | |
| T トイレ・シャワー (衛生) | <p style="text-align: center;">概ね20人に1基</p> <ul style="list-style-type: none"> 快適トイレ・手洗い場が確保されている。 着替えができ、体を清潔にできる。 ゴミが適正に処理できる。 | <p style="text-align: center;">1日1回</p> <ul style="list-style-type: none"> シャワー（風呂）が利用できる。 衣服の洗濯ができる。 | <ul style="list-style-type: none"> 「快適トイレ」を補助事業により3年間で75基導入支援（令和3年～5年度） 「快適トイレ」を県総合防災訓練で設置（令和3年度） 県避難所運営マニュアル策定指針の改定（令和3年度） |
| K キッチン (栄養) | 栄養に配慮した温かい食事 | | <ul style="list-style-type: none"> キッチンカーによる食事提供の仕組みづくり等について検討会で協議（令和3年度） |
| | <ul style="list-style-type: none"> 主食とおかずがついた食事が提供されている。 | <ul style="list-style-type: none"> 避難所（被災地域）等において作り立てが提供されている。 | |
| B ベッド等 (睡眠) | <p style="text-align: center;">必要な寝床の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要数が確保され、かつ1世帯1空間のパーティションが設置されている。 | <p style="text-align: center;">暑さ・寒さの緩和</p> <ul style="list-style-type: none"> 適度な温度が保たれている。 夏季には冷房等の設置、冬季にはジェットヒーターや電気毛布の配布等により、過ごしやすい環境が保たれている。 | <ul style="list-style-type: none"> 段ボールベッド等の調達について民間団体と協定締結（令和2年度） 段ボールベッドの迅速な供給体制の確保について検討会で協議（令和3年度） |

快適トイレの標準仕様

【全景】



- ・ 洋式便座
- ・ 水洗（簡易水洗も含む）
- ・ 臭い逆流防止機能（フラッパー機能）
- ・ 容易に開かない施錠（二重ロック等）
- ・ 鏡付き洗面台 等



【トイレ内部】

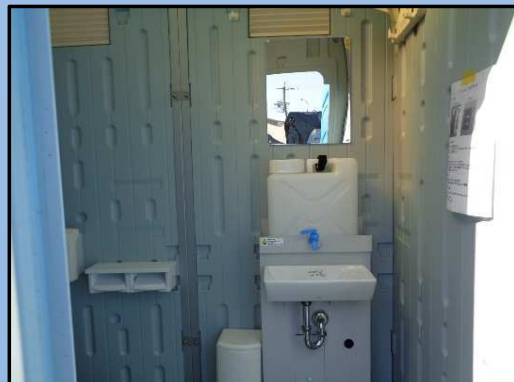


- ・ 国土交通省では、H28.10以降の発注工事から「快適トイレ」の導入を原則化
- ・ 県発注の一部工事でも「快適トイレ」導入を試行（R3.2～）

（参考）
【従来の仮設トイレ】



【簡易水洗洋式便座】



【鏡付きの洗面台】



【二重ロック】 【擬音装置】



5 ボランティア、NPO等の活動

5-1 ボランティア、NPO等の活動

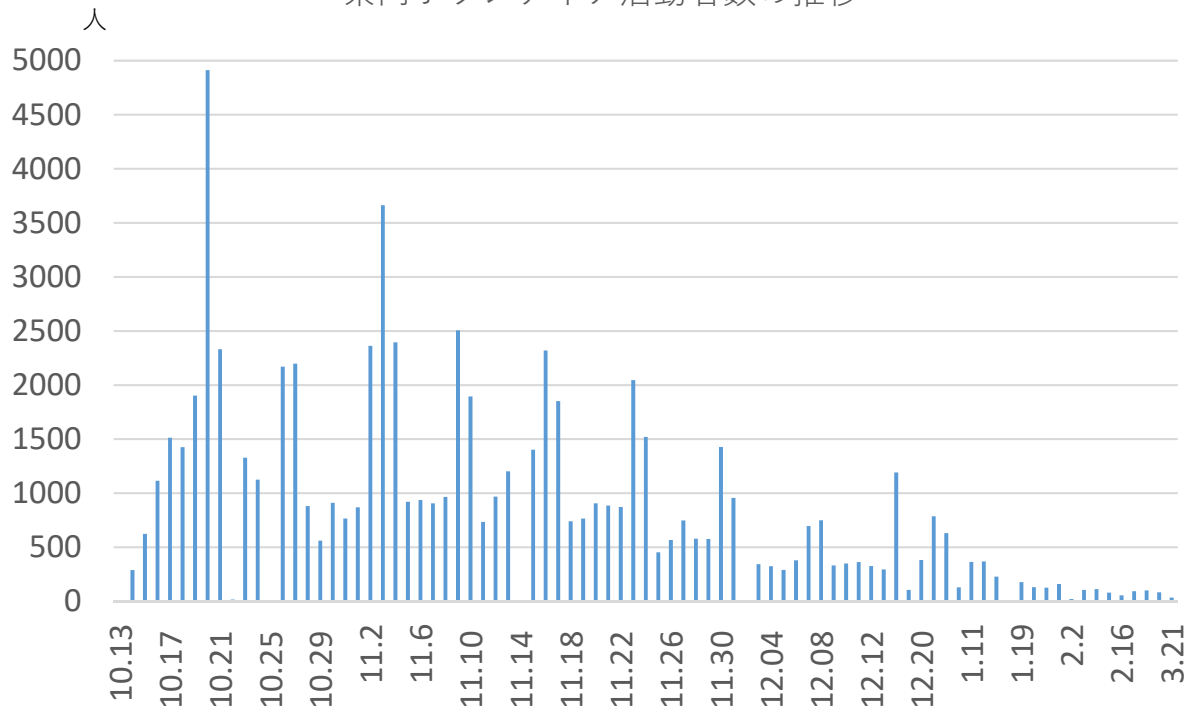
(1) 災害ボランティア活動

【取組の進捗状況】



長野市災害ボランティアセンターりんごサライト（長野市穂保）

県内ボランティア活動者数の推移



- ・ 発災後、R1. 10. 16までに県内11市町村で災害ボランティアセンター開設 (R2. 3月末まで)
- ・ 全国から参加したボランティア 延72,989人
- ・ 長野市では、R2. 6. 6以降家財搬出等のボランティア活動再開 (R2. 6. 6~R3. 3. 14 延174名活動)

【活動状況】

□泥かき



□災害廃棄物の運搬ボランティア



□炊き出し



□救護



□清掃



【課題・今後の取組】

- ・ボランティアニーズを把握するため、生活支援・地域ささえあいセンターの訪問調査等を継続
- ・今後の災害発生時において、ボランティア活動の円滑かつ効果的な実施を支援するため、長野県社会福祉協議会と長野県災害ボランティアセンターの設置・運営に係る協定を締結 (R2.12.23)

(2) NPO等の活動



情報共有会議で活動状況を共有



重機を持ち込み災害ごみを撤去



子どもたちに居場所と食事を提供

【県の取組】



信州災害支援寄付基金 みんなでひとつに がんばろう信州

長野県災害時支援ネットワークと県が協力して、
長野県NPOセンターを運営主体とする
“ONE NAGANO基金”を立ち上げ。

県から基金の原資として1,000万円を拠出(補助)。

◆助成の状況

第一次：32件（972万円）を採択、助成

第二次：17件（360万円）を採択、助成

【課題と今後の取組】

課題

- ・ 県外等の支援団体から地域の活動に引き継ぐ過渡期を迎えており、支援の手が滞らないよう連携が必要。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を徹底したうえでの活動が必要。

県の取組

- ・ 災害時支援ネットワークや県NPOセンター等と引き続き連携、情報を共有。
- ・ 他の民間助成金等の情報も積極的に提供、助言。

6 地域の取組

【インフラの復旧状況】

① 農地・農業用施設の復旧状況

佐久地域の農地・農業用施設災害復旧工事は概ね発注が完了。仮設を含め面積換算で、頭首工の99.5%、農地の85.6%において、営農再開が可能です。 <令和3年2月末現在>

| 工種 | 被災面積 | 営農再開の状況 | |
|-----|----------|----------|--------|
| | | 面積 (ha) | 割合 (%) |
| 頭首工 | 4,887 ha | 4,863 ha | 99.5% |
| 農地 | 569 ha | 487 ha | 85.6% |



② 治山・林道事業の状況

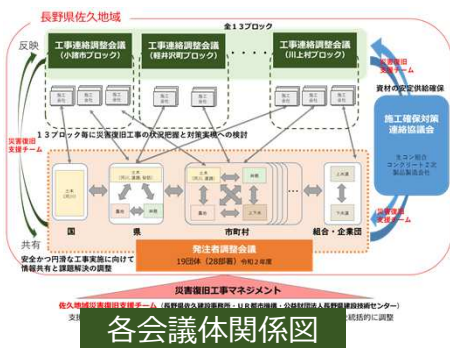
県施工による治山事業は、令和3年5月をもってすべて完了する見込みです。
市町村施工による林道事業は、令和3年度中の完全復旧を目指し、その支援に努めています。

| 事業名 | 箇所数 | 金額 (千円) | 施工主体 |
|------|-----|-----------|-------|
| 治山事業 | 7 | 443,115 | 県営施工 |
| 林道事業 | 117 | 1,002,048 | 市町村施工 |
| 計 | 124 | 1,445,163 | |



③ 「佐久地域災害復旧マネジメント業務」の導入による復旧状況

佐久地域一体で災害復旧工事の早期完了を図るため、「発注者調整会議」等による関係者間の横断的な調整により、概ね6割の県工事が完了。また、進捗状況をHPで発信しました。〈令和3年3月末現在〉



① 佐久地域災害復旧工事箇所MAP
Web上で工事箇所を確認できます！

② 工事了り箇所の写真集
完了現場の様子を確認できます！

当ページは右記のQRコードからもアクセス可能です。

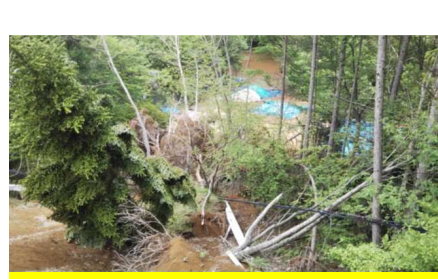
sss 佐久地域災害復旧支援チーム
[長野県佐久建設事務所・UR都市機構・長野県建設技術センター]

【商工業の再生】

商工業事業者への支援実績

被災した中小企業者に対して、相談・支援を行い、グループ補助金15社、再建支援補助金10社が交付決定され、災害関連の県制度資金は、3億円余の融資の斡旋をしました。

【被災者支援説明会・個別相談】
①説明会・個別相談会：4回 ②地域窓口開設：4回 ③事業者個別訪問支援：21回



県融資

補助金

| | |
|--|-----|
| 中小企業等グループ施設等復旧整備補助金 ・補助率：3/4 (補助上限額：15億円) | 15社 |
| 地域企業再建支援事業費補助金 ・補助率：3/4 (補助額：200万円～3,000万円) | 10社 |

| 融資メニュー (災害関連) | あっせん件数 | 金額 |
|-------------------|-----------|-----------|
| 災害対策 (年利0.8%) | 設備2, 運転7 | 4,250万円 |
| 特別経営安定対策 (年利1.6%) | 設備1, 運転12 | 2億7,300万円 |

【地域の復興・再生】

「地域発 元気づくり支援金」を活用した取組

「元気づくり支援金」を活用し、地域住民が主体となって“元気と希望”を取り戻すための復興支援イベントを開催、また、災害伝承活動などにも取り組みました。

被災地に“元気と希望”を取り戻すため、復興支援イベントを開催



復興支援コンサートの開催【R2.9】

安心・安全な地域づくりを進めるため、地域住民が主体となってイベント等を開催

佐久市常和区



『復興大根収穫祭』の開催【R2.11】



佐久穂町



復興支援生け花教室の開催【R2.10】

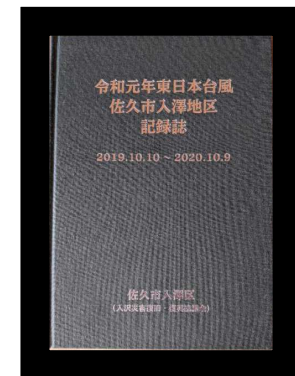


令和元年東日本台風災害の状況を記録誌に残し、後世へ伝承

佐久市入沢区



記録誌編さん委員会の様子



記録誌

① インフラの早期復旧

□ 道路・橋梁・河川

○ 海野宿橋・千曲川河川堤防護岸工事（本海野）

- ・R1.11.15 応急工事完了、しなの鉄道運行再開
- ・R2.12.28 河川工事の不良を公表し、再施工中
- ・護岸工事はR3.6中の完成見込み
- ・海野宿橋は、橋台工事を実施中

（Build Back Betterのポイント）

国代行工事による護岸、橋梁基礎の強化工事（河道拡幅、護岸基礎の補強、橋台基礎への杭実施 等）

○ 田中橋周辺護岸工事

- ・橋台裏の県道崩落し1名が死亡、全面通行止めとなる
- ・R2.3.11 橋梁周辺を復旧し通行再開、護岸工事継続
- ・現在、護岸は完成し根固を工事中、3月末完了予定

○ 内村橋架替え工事

- ・洪水による河床低下で橋脚が沈下し全面通行止中
- ・無橋脚の橋梁新設工事を実施中、現在、橋台は完成
- ・公表した完成期限(R3.11)より1日も早い完成を目指す



② 営農再開に向けた支援

□ 農業被害の状況

（単位 千円）

| 作物被害 | | 生産施設・農業機械 | | 農業集落排水施設 | |
|---------|---------|-----------|-----------|-----------|--------|
| 面積 (ha) | 金額 | 棟等 (箇所) | 金額 | 箇所 | 金額 |
| 135.2 | 38,405 | 142 | 177,566 | 1 | 20,000 |
| 農地 | | 農業用施設 | | 計 | |
| 箇所 | 金額 | 箇所 | 金額 | 金額 | |
| 892 | 891,000 | 780 | 5,570,000 | 6,696,971 | |

□ 農業用水の確保による営農再開

- ・頭首工の被災により用水の確保が困難となった農地 2,368ha

内 復旧や仮配水により水稻作付け可 2,300ha(97.1%)
 通水不可(代替作物栽培 等) 68ha(2.9%)

- ・令和3年度中に全ての頭首工の復旧を目指す

被災直後



現在



③ 地域公共交通の確保

□ 鉄道路線代替輸送支援

○ **しなの鉄道** (負担割合: 国1/4、県9/16、沿線市町3/16)

| 代行バス運行区間 | 運行期間 | 利用者数 |
|----------|-------------------|------------------------------|
| 田中駅ー上田駅 | R元.10.23~R元.11.14 | バス 1,076人/平日 新幹線1,443人/平日 |

○ **上田電鉄** (負担割合: 国1/3、県1/3、上田市1/3)

| 代行バス運行区間 | 運行期間 | 利用者数 |
|----------|-------------------|-----------|
| 下之郷駅ー上田駅 | R元.10.15~R元.11.15 | 2,950人/日 |
| 城下駅ー上田駅 | R元.11.16~R3.3.27 | 1,574人/日※ |

※ R3. 2. 28時点

□ 上田電鉄別所線 千曲川橋梁復旧工事



被災直後



現在

(Build Back Betterのポイント)

上田市が事業主体となり、上田電鉄等と連携して実施

- ・第1期工事(～6月上旬): 橋桁撤去、橋台構築・橋脚補強
- ・第2期工事(11月～3月): 橋桁架設、橋脚補強等
- ・**全線運行再開: 令和3年3月28日(日)**

④ 観光復興に向けた取組

□ つながる灯りキャンペーン (地域振興推進費事業)

管内市町村及び観光団体と連携し、落ち込んだ地域内観光需要を喚起

○ つながる灯り「#lightup_ueda」 インスタグラムキャンペーン

- ・地域の復興を感じる「灯り」のある写真を募集(応募期間: R2.1.24~3.11)
- ・投稿写真数: 360件超

最優秀賞



○ つながる灯り信州上田 観光キャンペーン

- ・アリオ上田にて上田地域の物産販売、缶バッチ製作、地域のPR等参加型イベントを開催(R2.1.25)
- ・イベント来場者: 1,350人

○ 復興応援企画「がんばろう！ 上田」in 別所線上田駅

- ・園児が制作した応援メッセージ等の展示
- ・ミニコンサートの開催等(R2.2.17)



□ 別所線全線開通にあわせた復興・観光PR (3/28)

- ・上田駅ナカ横丁(上田駅自由通路特設会場)
- ・アルクマの列車への乗車及び関連イベントへの参加
- ・管内留学生による国内外に向けたSNS情報発信

6-1 地域の取組（長野地域振興局）

（1）地域課題（広域的な課題）等について議論・検討、情報共有

災害に係る広域的課題について市町村と県で共同研究し、検討結果を報告

（第3回長野・北信地域市町村副市町村長会議 R3.2.17）

今後の方向性等

- ・市町村境に居住する住民の避難場所について、関係自治体間で状況を確認し、相互利用を検討
- ・ホテル、旅館の立地状況等を勘案し、県と市町村で連携して広域的な受入について検討
- ・県有施設を一時保管場所として活用することも検討
- ・民間処分場や市町村の残土置場の情報を定期的に共有し、発災時の選定や利用調整について協議・検討
- ・広域災害ボランティアセンターと市町村災害ボランティアセンターの設置・役割分担について、県社協と市町村社協で検討
- ・市町村社協間のネットワークや情報共有のしくみづくり
- ・市町村と市町村社協間での協力事項や費用負担に関する協定の締結
- ・市町村ごとの訓練に加えた広域的テーマに関する隣接団体との訓練や、タイムラインを活用した訓練の検討

■ 市町村域を越えた避難所やホテル・旅館等の広域的活用

■ 災害廃棄物の一時保管場所や残土処分場の確保

■ ボランティアの広域的受入調整

■ 広域的な防災訓練の実施

災害地の復興対策委員会等への参加（地域課題等の情報共有）



住民が防災拠点のあり方等について考えるワークショップ



千曲川河川事務所による住民説明会



長野・北信地域市町村副市町村長会議

市町村長との意見交換
[長野市、須坂市、千曲市、小布施町、高山村]

(移動知事室)
【拡大版】長野地域活性化推進会議

被災地の復興対策組織への参画

国や被災市町村との連携

(2) 地域振興推進費を活用し、被災地農産物の販売を促進

新幹線マルシェ&「ONE NAGANO」復興支援（JR東日本グループとの連携）



■ 東京駅スクエアゼロで被災地の果物を販売



R2.9月~11月 計5回開催



JR東日本、銀座NAGANOと連携して
長沼産のりんごを販売



■ 東京駅→須坂のぶどう園を オンラインで繋いでぶどう狩り



須坂市産ぶどう
「シャインマスカット」
「ナガノパープル」
1時間で完売



東京駅での信州ぶどう・りんごフェア

- 東京駅グランスタ等の5つの飲食店が長野地域のぶどうやりんごを使用して新たに創作したスイーツ等を提供



元町 香炉庵 元町 丸ごとシャインマスカット大福



コロパン 東京りんご

北海道チューボー ナガノパープルのきらきらパフェ

R2.10/15~10/31開催

ながの地域くだものまるごと商談会

- 果物の栽培農家や加工品事業者とバイヤーの商談、交流の機会を提供

売り手事業者:24者
買い手事業者:31者 参加



商談対象商品

りんご、シャインマスカットなどの青果
ジャム、ジュース、シードル、ワイン等の果物を加工した飲料等
フルーツグラノーラや果物を用いた菓子等

R2.10/8開催 メルパルク長野

プロサッカーチームと連携した販売



- ACパルセイロの公式戦会場で「復興りんご」を販売

R2.12/20開催 長野スタジアム



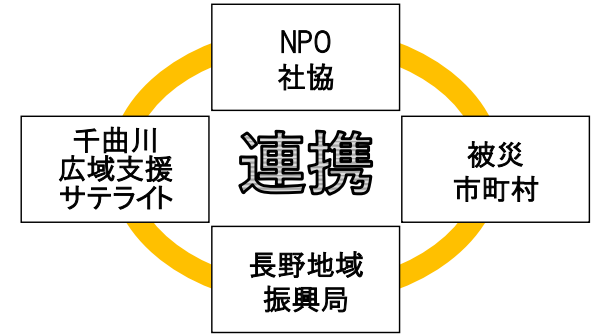
(3) 復興支援のためのウェブサイトによる被災地の取組の発信 (R2.9開設)

【長野地域版「ONE NAGANO」PR事業】



- 復興に係る様々な情報を広域的・一元的に発信
- 『「まだ」終わっていない』をキャッチフレーズに、主に以下のコンテンツを掲載

ウェブサイトはこちら



継 被災自治体情報の発信

ONE HEART



- 復興関連イベント情報や、長野市の復興だより「ONE HEART」等、被災自治体の復興関連情報の周知

継 被災地域の現状地域住民からの投稿



- 被災地の現状を伝える写真等、地域住民の声を随時発信

継 被災者・支援者のインタビュー記事等



- 復興のために活動する被災者やそれを後押しする支援者へのインタビュー記事や写真、動画

- 地域のプロスポーツチームの応援メッセージ

継 SNS「note」による発信

note

ONE-NAGANO長野地域版取材班
AC長野パルセイロ「令和元年東日本台風災害復興支援イベント」



- イベントやこぼれ話、地域のライターによるローカルな話題

新 AIを活用したチャットボットの導入

キャラクターデザインは



岡学園の生徒に依頼



- ウェブサイト内のコンテンツにチャット形式でアクセスできるチャットボットを導入し、学びながら閲覧できる機能を追加

新 被災4市町参加の実行委員会との連携



- 住民自治協議会や被災4市町等で組織する「今こそ応援『がんばろうNAGANO』2020実行委員会」と連携し、広域的な復興を支援

6-1 地域の取組（北信地域振興局）

復旧に向けた整備

北信地域の被害は、

- ・ 住宅地、農地への浸水、土砂流入・堆積
- ・ 道路、河川、農業用施設等の損壊



- 道路、河川、農地、農業用施設等は、災害復旧事業による復旧工事（完了箇所数：92.8%）
- 飲食店、施設農家等は、グループ補助金、特用林産施設災害復旧事業等による事業再建（事業終了：補助金額277,918千円）
- 小規模事業者、商店街等は、持続化給付金、商店街にぎわい創出補助金による事業再建（事業終了：補助金額 69,710千円）

○ 信濃川水系緊急治水対策プロジェクト

立ヶ花、戸狩地区狭窄部の河道掘削開始（R3. 2. 22）



立ヶ花地区（立ヶ花橋から上流を望む）

【営農の状況】

- 農地の排土は、水田はR2春、畑はR2. 7に完了
- 頭首工が被災した箇所は、一部仮設で対応
（被災367箇所のうち、349箇所（95.1%）が完了）
- 水稻等の春の作付への影響はなし
- 一部で枯死が見られた果樹は、新たな植樹等に対応
- キノコ栽培では、2軒が営農再開を断念

（参考）農業被害の状況

| 項目 | 面積・箇所 | 被害額（千円） |
|---------------|-------|-----------|
| 作物被害 | 689ha | 294,074 |
| 生産施設・キノコ等農業機械 | 397箇所 | 513,436 |
| 農地 | 613箇所 | 4,181,000 |
| 農業用施設 | 320箇所 | 3,033,000 |
| 合計 | | 8,021,510 |

自治体の取組（災害時の市町村の広域的な対応についての検討）

○ 経過

- R2. 6. 29 共同検討に関する提案（第2回長野・北信地域市町村副市長村長会議）
各団体の状況や意見についての照会
県社協や市町村危機管理担当課長会議での意見交換
- R3. 2. 17 検討結果報告（第3回長野・北信地域市町村副市長村長会議）

○ 検討項目

- 避難所の広域的活用について
- 災害廃棄物の一時保管場所、残土処分場の広域的活用について
- 広域的なボランティアの受け入れ調整等について
- 防災訓練の広域的な実施について
- 罹災証明等の事務に関する研修の実施について

○ 検討結果（今後の方向性）

- ・ 市町村境に居住する住民の避難場所については、関係自体間で状況を確認し、利用を検討
参考事例）飯山市と木島平村の協定
- ・ ホテル、旅館の立地状況等を勘察し、県と市町村で連携して広域的な受入について検討
- ・ 県有施設（千曲川流域下水道事務所敷地等）を一時保管場所として活用することも検討
- ・ 民間処分場の状況や市町村が確保済の残土置場の情報を定期的に共有し、発災時の選定や利用調整について協議・検討
- ・ 広域災害ボランティアセンターと市町村災害ボランティアセンターの設置・役割分担について、県社協と市町村社協で検討
- ・ 市町村社協間のネットワークや情報共有のしくみづくり
- ・ 市町村と市町村社協間での協力事項や費用負担に関する協定の締結
- ・ 市町村ごとの訓練に加えた広域的テーマに関する隣接団体との訓練や、タイムラインを活用した訓練の検討
- ・ 今年度（R2.9.15）から県で研修会を開催しており、引き続き出水期前に研修会を実施していく予定